

スリル満点！
 ツリーアドベンチャー

- 2 特集 守りたい！地域医療
 —庄原市の小児医療を考える—
- 10 語り継ぐ「平和への思い」
- 12 地域の夢の実現へ28事業を採択
- 14 【お詫び】市職員の逮捕について
- 22 市政トピックス
- 24 カメラレポート
- 28 お知らせ

高野町の大鬼谷オートキャンプ場に、7月下旬オープンした西日本初の「ツリーアドベンチャー」。地上8桁の高さで、恐怖心と戦いながら、さまざまな関門に挑戦していく施設です。勇気と知恵で挑む大人のレジャーとして、また子どもの自立心を育む体験の場として大好評。90分遊び放題で、大人2,800円、子ども2,000円。宿泊者や団体(15人以上)は割引があります。詳しくは大鬼谷オートキャンプ場(☎0824-86-2323)へ。



(平成21年7月14日撮影)

Vol.3
 総領のブッポウソウ

しょうばら
 SHOBARA HYAKKEI
百景

この写真は、総領町黒目で撮影したブッポウソウです。ブッポウソウは全長約30cm、青緑色に輝く羽には白斑があり、くちばしと足先が赤いのが特徴。光線の具合によっては瑠璃色に美しく輝きます。環境省の絶滅危惧種に指定され、総領町では約10年前から保護活動が行われ、40カ所以上に巣箱が設置されています。毎年、巣立ち前の7月上旬に「ブッポウソウ探鳥会」が開催され、カメラマンなどが多く参加しています。今年の夏、初めてブッポウソウの撮影に挑戦しましたが、動きが速く苦労しました。ブッポウソウはレンズを怖がるので、約40cm離れた場所にカメラを設置。ブッポウソウの習性を観察しながら、望遠レンズで連続撮影を繰り返しました。

山手 智(中本町)

応募方法

写真を通して庄原市の魅力を再発見するコーナーです。風景写真はもちろん人物写真でも結構です。あなたの好きな庄原市の風景を写真で紹介してください。また、この写真への思いや撮影エピソードなどを200字程度にまとめ、郵送またはメールでご応募ください。

応募先
 〒727-8501
 庄原市中本町一丁目10番1号
 庄原市企画課広報統計係
 ☎0824-73-1159
 メール
 kikaku-toukei@city.shobarahiroshima.jp

広告



毎月見学会を開催しています。



詳しくはフリーダイヤルでお問合せください。また、ホームページでもご覧頂けます。
 0120-356-218
<http://www.sokkuri3.com>

築90年

2階物置を撤去し吹き抜けにしたリビング



国土交通大臣許可(特-17)第4638号
住友不動産

新築そっくりさん 広島東営業所
 〒739-0011 広島市西条本町7-29(林ビル1階)
 TEL082-431-3525 FAX082-423-1751

「小」 児科医が足りない「お産が
できない」など、医師不足が
深刻化し、地域医療を支えて
きた病院が診療科の縮小や閉鎖に迫
り込まれています。

医師不足の原因として一般的に言
われているのが、国の医療費抑制政策
による医学部定員数の削減や、平成16
年導入の新しい臨床研修制度です。新
人医師が大学病院の医局に属するこ
となく、自由に研修先を選べるようにな
ったため、都市部の大規模病院に人
気が集中。大学病院の医局に医師が残
らなくなり、過疎地域に派遣される医
師が減少しました。

特に、夜間・休日の救急医療の対応
など、四六時中拘束される外科、産科、
小児科などの診療科を希望する医師
が減っています。新臨床研修制度が始
まってから、研修医はさまざまな診療
科を経験する中で、勤務条件の悪い診
療科を敬遠する傾向にあると言われ
ています。

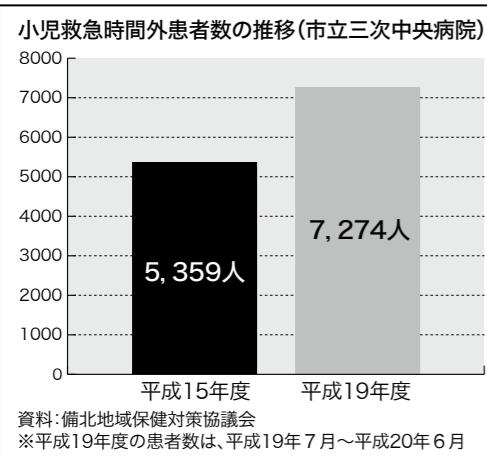
「市」 内で唯一、小児科医が常勤す
る庄原赤十字病院。広島大学
病院の医局から1〜2年間
の期限付きで小児科医2人が派遣さ
れ、1人ずつ交互に医局へ戻る仕組み
です。しかし、医師不足や過酷な勤務
形態などから、同医局がこれまで通り
地域の各病院に医師を派遣するのは
困難な状況になっており、医師確保へ
の不安が高まっています。

子育て中の母親の1人は「うちの子
はぜんそくがあり、定期的に小児科を
受診している。庄原赤十字病院には親
身になって診ていただける先生や看
護師がおられ大変助かっている。小児
科の先生を絶対になくさないでほし
い」と話しています。

「庄」 原赤十字病院の小児科は、24
時間365日の診療体制を
整えています。

時間外診療で多忙な小児科医

小児科の金丸博副部長は「2人しか
いないので、体調が悪くても休むわけ
にはいかない。体調管理に気をつけて、
病気になるないように心がけている」と
話しています。



01 小児医療の危機

なぜ医師不足が起きているのか、
庄原市の現状はどうなのか、
小児医療の現状に迫ります。



医師確保へ不安な庄原市

「小」 児科医が足りない「お産が
できない」など、医師不足が
深刻化し、地域医療を支えて
きた病院が診療科の縮小や閉鎖に迫
り込まれています。

夜間の小児救急は、原則当直医が診
ることになっていますが、小児科医2
人が交代で、2日に1回自宅待機し、
呼び出しがあればいつでも病院に行
けるよう準備しています。また、土日
も交代で勤務し、10時〜12時の救急外
来や、入院患者の回診などを行って
います。

「医」 師を確保するため、庄原市は
市長会などを通じて国や県
に強く要望しているほか、小
児救急医療補助金など庄原赤十字病
院へ年間約1200万円の財政支援
を行っています。

また、本年度から保育所・幼稚園の
保護者などに、救急・予防ノート「こど
もの救急」を配布しています。この冊
子は、夜間や休日などの診療時間外に
病院を受診したほうがよいかどうか、
発熱やけいれんなどの症状別におお
よその目安を提供しています。

財政支援や小冊子を配布

保健医療課の市岡恵美子係長は「こ
の冊子が、いざという時に不安な家族
の助けになればうれしい。また、安易
な夜間・休日受診を避け、医師の負担
の軽減につなげたい」と話しています。

特集 SPECIAL

「守りたい! 地域医療」

— 庄原市の小児医療を考える —

近年、全国的に小児科医が不足し、小児救急医療体制の崩壊が問題視されています。このような状況の中、ここ庄原市でも医師確保への不安が高まっています。未来を担う子どもたちが安心して小児医療を受けられるまちづくりは市民みんなの願い。小児医療を守るために何ができるのか、みんなで考えてみましょう。



庄原赤十字病院小児科の香川礼子医師



02 みんなで守ろう小児医療

「インタビュー」

地域医療を守るためには、行政や医療関係者、そして住民が互いに知恵と力を結集することが大切です。小児医療を守るために何ができるのか、庄原市子育て支援センター「ひだまり広場」に集う母親が、庄原赤十字病院の中島浩一郎院長へインタビューしました。



—庄原赤十字病院の小児医療の現状や課題を教えてください。

当 院は、広島大学病院の医局から派遣された2人の小児科医が、1〜2年のサイクルでローテーションしています。

問題は、広島県の小児科医の絶対数が減っているということ。医師の確保

ができません。県内でも当院よりはるかに大きな病院で小児科がなくなっています。

最近の医師不足により、医療の集約化や資源の有効活用が行われていますが、庄原市の場合は面積も広く、これ以上の集約化はできません。広島大学病院の教授も庄原市の状況を踏まえ、「なんとか2人は確保してあげたい」と言っています。

庄原赤十字病院 中島浩一郎 院長

昭和30年生まれ。山口県出身、広島育ち。広島大学卒業。庄原赤十字病院の在職は通算25年。副院長を経て平成21年1月1日から現職。

「言っているのは、派遣していただけるものと思っています。しかし、いくら教授がなんとかしたいと思っても、絶対数が減ってきているので、毎年「今年は大丈夫だろうか」という心配は続くと思います。」

—もし、小児科医が1人になるとどのような影響がありますか。

小 児科医が2人から1人に減ると、日常診療は常勤医師とアルバイトの医師でできるかもしれないませんが、夜間・休日診療、そして入院診療が難しくなります。2人いると夜間・休日も交代で勤務できますが、1人では長続きしません。小児科では、地域の乳児健診や予防接種も積極的にを行っています。そして、入院があれば、24時間病院の近くから一切離れられませんが、そのため、どうしても小児科医2人は確保したいと思っています。

—全国的に小児科医の過労が問題になっていますね。

当 院の小児科では、365日、夜間・休日もどちらか1人は呼ばなければなりません。特に冬場などインフルエンザや嘔吐・下痢が流行る時期は、一晩に3回ぐらい呼ばれることもありま。しかし、小児救急はほとんどが軽症で、入院しないといけない症状はわずか。まずは当直医が診察し、小児科をファーストコールにしないことで、医師の負担を軽減しています。

保護者の皆さんの中には、「どうして小児科医に診てもらえないのか」とい

う不満があるかもしれませんが、昼夜なく勤務する小児科医の現状を知っていただき、当直医が診ても、小児科医のバックアップ体制があるということでご理解いただきたいと思っています。

—小児科医を確保するために、住民ができることがありますか。

庄 原市は他の地区に比べて、コンビニ受診が少ないと思います。そのため、医師も「他の地区に比べて働きやすい」と感じています。

現在、都市部の病院では小児科に限らずコンビニ受診が増えていることから、夜間・休日の時間外受診について、緊急に受診する必要がある軽症患者から通常の診療費のほかに選定療養費として約5000円を徴収し始めています。これにより、救急外来が1/3に減ったという事例もあります。

当院では、そこまでの状況はないので、今のところ考えていませんが、これまで通りできるだけ診療時間内の受診を心がけてほしいと思います。

もう一つは、医師と患者が互いに敬意を払い、思いやりを大切にすることが大事だと思います。医師や看護師はできるだけ努力し、気持ちよく一生懸命診る。そして、患者の皆さんは「あり

がとう」と言葉をかける。そういう人間として当たり前だが、医師や看護師にとつてのやりがいにつながっています。

新臨床研修制度ができて以来、大学病院の医局に人事権がなくなりました。そのため、医師同士の情報交換や口コミが医師の派遣に影響を与えています。実際のところ、ほとんどの医師は、教授から「庄原市へ行ってほしい」と言われたら、まちの規模が小さいため最初は敬遠します。しかし、庄原市は1度来るとみんなが気に入る土地柄です。私もそうですが、「庄原勤務は2回目です」という医師が当院には多くいます。これもコンビニ受診が少なかつたり、医師と患者が互いに心配りができる環境があったりするからだと思います。

当院から大学病院へ戻った医師が「庄原市は働きやすくて良かったよ」と後輩へ伝えてくれています。これがすごく大きな力になり、教授も「庄原市は医師を大事にしてくれるまち」と安心して派遣できます。これからは庄原市の良さを大切にして、「医師が働きたくなるまち」であってほしいと思います。

—医師確保のために署名活動などが必要ですか。

将 来のことは分かりませんが、今のところ署名活動までは必要ないと思います。しかし、小児科医確保の取り組みとして、今年のうち「小児医療に関するシンポジウム」などを開きたいと思っています。大学病院の教授を招き、保護者や市民の皆さんに参加いただき、一緒に庄原市の小児医療を考えていきたいと思います。その時は、ぜひ参加してください。

—最後に市民の皆さんへメッセージを

病 院は地域の方に信頼されて、支まされないと存在意義はありません。また、今後は予防医療から在宅医療も含めて、さまざまな面で地域と一体化した病院を目指さなければならぬと思っています。そのためにも、できるだけ病院をオープンにして、情報発信する、そして一方通行にならないよう患者の皆さんの声をできるだけ謙虚に受け止めながら、今後の病院経営を考えていかなければなりません。

最近よくテレビで「神の手」などと言っている日本の第一人者の先生が紹介されていますが、それと同じような医

インタビューを終えて みんなで医師が働きやすい環境づくりを

小児科の先生は本当に休みがなく、その大変さを改めて感じました。また、病院も努力されていることが分かり、少しでも夜間や休日受診を減らさなければと思います。そのためにも、私たち親の心がけはもちろん、子どもたちの病気に對して学習するなど、親としての資質の向上が大切だと感じました。今後は、そのちよつとずつの努力を続けていきたいと思っています。

今後、小児科の先生が希望して庄原市に来ていただけるような環境を市民全員で創っていければ最高だと思います。



左から八谷るり子さん(川北町)、手島亜希さん(総領町)、荒木規子さん(川手町)

療が当院でも可能になっています。そのことをもつと市民の皆さんに知っていたらいいと思います。市民公開講座「これテレビで見たことある」を始めました。また、時間の許す限り地域に出かけて、集会所などでもミニ講座を開いています。

当院は高度医療を提供する位置付けがあり、常に国内の標準レベル以上の医療を目指して走り続けていかなければ、あつという間に中核病院としての機能を失ってしまいます。そうすると大学病院から医師を派遣して

いただけなくなります。「庄原市から高度医療のともしびを消してはいけない」という思いを強く持っています。その他、庄原格致高校のPTA総会に出席して「子どもを看護師にしませんか」と呼びかけたり、庄原実業高校とタイアップして、病院給食に地域食材を使用したり、地元高校生との交流を図りながら、地域に密着した病院経営に取り組んでいます。

今後とも市民の皆さんのご意見を伺いながら、期待にこたえていきたいと思っています。

03 「西脇小児医療を守る会」

【レポート】

現在、全国各地で住民自身が立ち上がり、「小児医療を守ろう」「地域医療を考えよう」とさまざまな活動に取り組んでいます。

兵庫県西脇市では、市立西脇病院小児科の医師が1人になり、入院診療が休止になりました。この状況をどうにかしたいという母親たちが集まり、「子どもたちのために、今自分たちにできることをしよう」と、平成20年1月「西脇小児医療を守る会」を設立。その活動はマスコミでも話題となりました。代表の村井さおりさんが、市内のホテルで講演した内容を一部抜粋して紹介します。



講演する代表の村井さおりさん(6月21日)

危機的状況を知り活動へ

平成19年7月、市立西脇病院の小児科医が1人になったことをきっかけに、入院ができなくて困っているお母さんの訴えや、身近で起きている小児科の危機的状況を知りました。「わが子を安心して育てることができなくなるのか」と考えたとき、黙って見過ごすわけにはいかないという思いに駆られました。

市立西脇病院の小児科を守るために、今の自分たちに何ができるのか、また、何をしなければならぬのか。同じ考えをもつ子育て世代のお母さん方と、地元の医師会に相談。また、隣接する柏原市の「県立柏原病院の小児科

科を守る会」に相談するなど、まず、次のことから取り組みを始めました。

①市立西脇病院の小児科医の増員を求める署名活動

街頭での署名活動を通して多くの声援もありましたが、「自分たちさえ良ければいいのよ」など、心無い批判を浴びせられることもありました。しかし、「小児科医を守り、子どもたちが健康で暮らせる地域にしたい」との思いで粘り強く署名活動を続けた結果、約6万5000人分の署名を集めることができました。

②上手に医療にかかるためのお母さんたちの勉強会

小児科へ夜間や休日の受診が増加し、小児科医の負担が増えている現状に対し、できるだけかかりつけ医を持つことや、病気に対する知識や情報を伝える勉強会を開催しました。夜間や休日に小児科を受診しなくても済む症状があることを伝えることで、小児科医の負担軽減につながっています。

③市立西脇病院の小児科医と交流

小児科医との意見交換や交流を通して、取り組むべき方向性が明らかになり、医師も市民に守られているとい

う連帯感と信頼が双方に生まれました。

活動から支援の輪が広がる

署名活動が、団体や企業の方と知り合う機会となり、休憩時間を利用して企業での勉強会を開催することができるようになりました。小児科医を守る取り組みは、決して子育てをしているお母さんだけに伝わるのではなく、これからお母さんになる独身女性や、親となる男性にも勉強してもらおう活動へと広がってきました。

私たちの活動は、当然のごとくマスコミにも伝わり、取材やニュースに取り上げられました。その結果、多くの市民が小児科医の過酷な勤務状況を知ることになり、署名活動などに対する賛同者が増えました。

医師会にも当初から勉強会への協力や病院との架け橋など、さまざまな面で協力をしてもらいました。また、市にも地道に活動をされているお母さん方に対し、勉強会の会場の無料提供や、託児所を無料で提供していただきました。

人任せにせず行動を起こす

本年4月から、市立西脇病院の小児科医が2人になり、6月から入院診療が再開されました。

夜間に急病で受診するかどうか迷ったら

- 小児救急医療電話相談「8000」
子どもの症状を小児科医や看護師が電話でお聞きし、今すぐ病院に行くべきか、それとも明日まで待っても大丈夫かを保護者にお伝えします。
- 受付時間 19時～22時
- 局番なし #8000
- 携帯電話から
082-505-1399
- 日本小児科学会HP「子どもの救急」
(アドレス<http://www.kodomo-qc.jp/>)
診療時間外に病院を受診するかどうか、判断の目安を提供しています。上記のアドレスにアクセスし、子どもの症状に当てはまる項目をチェックすると、様子を見るか受診するか教えてくれます。対象年齢は、生後1カ月～6歳までのお子さんです。

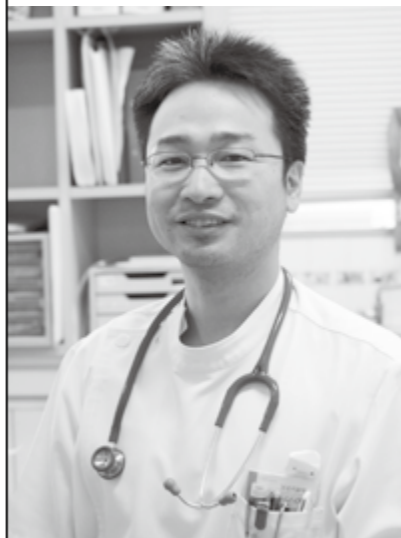
小児救急の上手な利用の仕方

- ①受診前に必ず電話をしましょう
庄原赤十字病院
0824-72-3111
- ※原則当直医が診察します。
- ②上手に状況を伝えましょう
- ◎いつから?
- ◎どのような症状?
- 気になる症状、熱の有無、食欲の有無、息苦しきの有無、嘔吐の有無、排便の様子など
- ◎飲んでいる薬は?
- 飲ませている薬があれば持参する
- ③忘れずに持っていくもの
保険証、乳幼児医療費受給者証、母子健康手帳

これまでの活動を通して、「してもらえる」という受身ではなく、「まずやってみよう」という積極的な考えで行動することが一番大切だと感じました。また、多くの方々の協力を得て今日までがんばり続けることができました。常に「ありがとう」の感謝の気持ちを持って活動することが大切だと実感しています。

現在、「医療」という壮大なテーマに取り組んでいます。そこにある課題は、とてもハードルが高く、課題解決のために一歩でも前に進むことができるのか不安もありました。

今、振り返って思うことは、市民・行政・議会・医師会・マスコミ、これらが互いに連携し、共に協力していかなければ、私たちの地域医療を守るための前進はないと考えています。それと、何より私たち市民が人任せにしない、自分たちに何ができるのか、何をしなければならぬのか、このことを考え行動することが一番大切だと思えます。



庄原赤十字病院
小児科
かなまる ひろし 副部長
金丸 博
昭和52年生まれ。北九州市出身。広島大学卒業。広島大学病院、広島市立舟入病院、呉共済病院を経て、平成21年から現職。

横のつながりでスキルアップを

す。このようにイメージができること、いざというときも慌てません。親同士の横のつながりを大切にして、情報交換を図りましょう。

夜間・休日の小児救急のほとんどが軽症患者ですが、家族の皆さんは軽症だと思つて連れて来られているわけではありませぬ。皆さん「うちの子は大丈夫だろうか」と不安でいっぱいです。つまり、発熱などの症状が出たときに、病院に行くべきかどうか迷っておられるということです。

今回、市が救急・予防ノート「子どもの救急」を配布されましたが、これを読んだだけでは分からないという方も多いと思います。自分の子どもに置き換えたとき、どれも該当しているように、逆に不安になるという方もいらっしゃると思います。

大切なのは、みんなで読むこと。「嘔吐が続いたときは、こうしたよ」などと、みんなの体験を出し合い確認することで、実際の状況が目に見えやす



救急・予防ノートの活用を呼びかける保健師

この「地域医療を考える会」は、平成17年4月から本市の出産医療体制の休止状態が続いているのに加え、精神科医や麻酔科医などの退職に伴う後任の医師確保が非常に厳しい状況になっています。

このような現状を踏まえ、将来にわたり市民が安心して暮らすことのできる地域医療を確保するため、庄原市医師会、庄原赤十字病院、庄原市の3者で「庄原市の地域医療を考える会」を設立しました。その狙いについて保健医療課の西田英司課長に伺いました。



04 「地域」の力で医療を守る

【課長に聞く】

庄原市では、平成17年4月から本市の出産医療体制の休止状態が続いているのに加え、精神科医や麻酔科医などの退職に伴う後任の医師確保が非常に厳しい状況になっています。

このような現状を踏まえ、将来にわたり市民が安心して暮らすことのできる地域医療を確保するため、庄原市医師会、庄原赤十字病院、庄原市の3者で「庄原市の地域医療を考える会」を設立しました。その狙いについて保健医療課の西田英司課長に伺いました。



保健医療課 西田 英司 課長

「庄原赤十字病院を核とした地域医療を考える会」

庄原市では、産科の休止をはじめ、精神科、麻酔科、耳鼻科の医師が退職された後の後任の医師確保が非常に困難となっています。こうした中、今後さらに他の診療科の医師も退職された時のことを考えると、庄原市の医療体制はどうなっていくのか非常に不安です。

この医師不足が引き起こした医療崩壊は、都市部だけの課題ではなく、庄原市でも現実のこととなっています。この現実を市民の皆さんに知っていただき、医療関係者、行政、市民が連携し、共通理解に立ち、庄原市の地域医療を何とか守っていきたくないと考え、6月21日に「庄原市の地域医療を考える会」を設立しました。

庄原市では、地域医療の中心的な役割を「庄原赤十字病院」に担っていたと考えています。そのため、この庄原赤十字病院を核として、本市全域の総合的な地域医療のあり方を検討し、具体的に取り組む組織としてさまざまな活動を行う予定です。

そして、新たな課題や多様な分野の課題を解決し、地域医療を充実していくため、段階的かつ発展的な組織の充実を図っていきたくと考えています。

考える会の設立にあたって、兵庫県「西脇小児医療を守る会」代表の村

井さおりさんを招き、記念講演会を開催しました。小児科医が4人から最終的に1人になったことを機に、お母さんたちが自分たちに何ができるのかを考え、できることから行動されたお話には、本当に感動を覚えました。また、お世話になっていらっしゃる先生方に「ありがとう」の言葉を伝える「ありがとうメッセージ」の取り組み、会員の熱心な勉強によって「休日・夜間の小児救急について」のカード作成の取り組みなどが紹介されました。

この「地域医療を考える会」の設立と「記念講演会の開催」をきっかけに、庄原市でも「小児科の先生を守ってきたい」という、市民の皆さんによる主体的な活動が新たに芽生えてきており、大変うれしく思っています。

引き続き、地域医療の現状や課題を積極的に提供していきます。

市独自の奨学金制度を検討

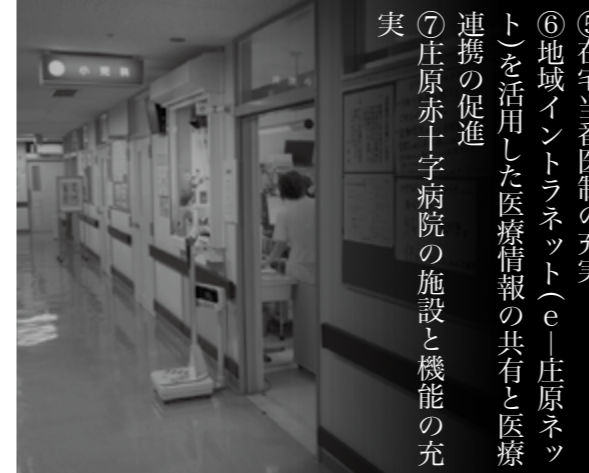
医師・看護師・薬剤師を確保するため、庄原市独自の奨学金制度の創設を検討しています。これは、今日不足している医師・看護師・薬剤師を目指す本市の若者に、経済的な支援をし、将来、庄原赤十字病院や西城市民病院さらには市内の開業医などに勤務していただき、本市の地域医療の充実につながることを目指しています。

現在、広島大学では「ふるさと枠」の設置、広島県では「医師育成奨学金」の助成制度など、既存の医師養成や看護師養成を図る取り組みが行われています。これらの制度を併用することができる制度、そして庄原市内の医療機関で一定期間従事すれば償還を免除することなどを盛り込んだ実効性のある奨学金制度の創設を考えていきます。

地域医療を考える会

- ### 設立の目的
- ① 庄原市医師会、庄原赤十字病院、庄原市の連携を密にし、地域医療を守る。
 - ② 地域医療の中核病院である庄原赤十字病院の施設と機能の拡充を図る。
 - ③ 市民の皆さんに地域医療の現状と課題についての情報を提供し、共有する中で、市民の皆さんと共にその対策を図る。

- ### 当面の活動
- ① 小児科医を守る取り組み
 - ② 医師、看護師、薬剤師の確保
 - ③ 院内保育所などの整備
 - ④ 庄原赤十字病院における休日・夜間の救急医療が集中している現状の解消
 - ⑤ 在宅当番医制の充実
 - ⑥ 地域イントラネット（e-庄原ネット）を活用した医療情報の共有と医療連携の促進
 - ⑦ 庄原赤十字病院の施設と機能の充実



教えて地域医療

Q. 出産医療の再開は？

平成17年4月から本市の出産医療体制が休止となつて以来、産婦人科医の確保のため、庄原赤十字病院と連携を図りながら、広島大学病院への医師派遣の要請や、市長会を通じての国および県への要望など、さまざまな機会を捉えて活動を行っています。

しかし、国・県は、緊急避難的な対応策として、産婦人科の医療提供体制を確保するため、中核病院や大規模病院に集約化・重点化を図っており、もはや一自治体で産婦人科医を確保することは、極めて困難な状況です。

現在、庄原赤十字病院では、広島大学病院や三次中央病院などと連携を図り、週3回の婦人科外来を実施し、妊婦健診の充実を図っています。

また、市は産婦人科医の不足を補うとともに助産師の有効活用策として、正常な出産は助産師が介助する助産所の設置ができないか検討しています。しかし、現実化するためには、①嘱託医の確保および嘱託医療機関の指定に係る制度面での優遇措置、②医療事故による訴訟事件に対応するための産科補償制度および事故究明制度の法整備など多くの課題があり、これらの課題解決のための環境整備および財政的な支援を国へ要望しています。

語り継ぐ

「平和への思い」

終戦から64年目の夏を迎えました。先の大戦、過去の戦争では、本市出身の2923人を含む全国約3000万人の若く尊い命が犠牲になりました。愛する家族との再会を夢見たまま命を奪われた戦没者の無念はもろろん、かけがいのない肉親を奪われた悲しみは、今もなお遺族の心の中に深く刻まれています。この悲劇を二度と繰り返さないために、語り継ぎたい「平和への思い」。



【インタビュー】

尽きることものない遺族の悲しみ



庄原市遺族連合会
井澤 聖昭 会長

昭和13年3月生まれ。25歳から庄原市遺族会青年部で活動を始め、県や中央役員などを務める。平成8年庄原市遺族会長。平成17年から庄原市遺族連合会長。日本兵約19万人が戦死したミャンマーに、「学校建設を通して平和貢献を」と全国に募金を呼びかけ、小学校3校を建設。長年の援護事業が認められ平成14年に厚生労働大臣表彰を受賞。青少年健全育成活動を34年間続け、平成19年に警察庁長官表彰を受賞。

だが、父親を戦争で亡くした子は2人しかいませんでした。当時は母子家庭の子を「ててなし子」と呼んで、いじめや差別を受けました。

祖父は私が試験勉強をしていると「お前は跡継ぎとして農業をするんだから、勉強なんかしなくてもいい」と言って部屋の電気を消しました。そのことがものすごく悔しかったです。

庄原実業高校比和分校へ進み、農家を継ごうと思っていたところ、祖父が事故で急死。この先どうすればよいか途方にくれました。父のお墓に行つて何度も相談しました。そこに遺骨がないのは分かっていましたが、お墓を抱いて一人で泣きました。「父がいてくれたら」「悔しさを寂しさがこみ上げてきました」。

分校の先生から「この先、農業だけでは生活が苦しくなる。どこかに就職した方がいい」と勧められるなど、農業の道をあきらめて就職試験を受けることにしました。当時は母子家庭の就職差別があり、それでも悔しい思いをしながら、庄原市へ出て民間会社に就職しました。

「戦争さえなかったら……」。ことあるごとに戦争を恨みました。戦争で父を失ったことで、つらい思い、寂しい思い、悔しい思いをしてきましたが、これは私だけではなく、すべての遺族が感じてきた思いです。しかし、私はぜひぶん地域の人に助けられました。

間には浮き沈みがあるから、決して非行に走ってはいけません。とにかくがんばれ」と絶えず励まされ、そして今日があると思います。

平和への思いを次世代へ

地球上ではいまだに戦争や紛争が絶えませんが、日本では64年間戦争がなく平和が続いています。これは本当にすばらしいことです。そこには、鉄砲の弾もなければ、食べるものもない中、ひたすら祖国の繁栄と家族の無事を願い、玉砕覚悟で自らの命を捧げた多くの犠牲者がいることを忘れてはいけません。

ここ5、6年、庄原市の戦没者追悼式並びに平和祈念式典に小中学生が参列してくれています。また、会場に來られない学校は折り鶴を折ったり、平和への思いを寄せ書きしたり、アトラクションとして中高生が吹奏楽を演奏するなど、いろんな方法で子どもたちが参加してくれています。

平和への思いを次世代へ引き継ぎたいと思っている遺族にとつて、このことを大変うれしく感じています。1年に1度、わずかな時間であっても式に参列し、献花することで、平和の尊さを肌で感じる事ができると思えます。これからも、子どもたちをはじめ多くの市民の皆さんに参加してほしいと願っています。

ボルネオ島で戦病死



私の父は、比和町森脇から昭和19年7月23日に出征しました。当時36歳。召集令状が来たのです。北九州の門司港から南方へ向かい、フィリピン・マニラに上陸。その後、現在のマレーシア・ボルネオ島に渡り、昭和20年2月24日、マラリアで戦病死しました。

当時、私は小学校1年生でした。正直、父の記憶はほとんどありません。鮮明に覚えているのは、叔母が森脇小学校に私を迎えに来て、背丈ほどある雪をかき分けて家に帰ると、親戚や近所の人がたくさん集まっていたこと。戦死公報が入り、父が亡くなったことを知りました。しかし、小さかったこととあり、国のために犠牲になったんだという思いで、寂しいとか悔しいと

いう感情はありませんでした。それからしばらく経って、三次市へ父の遺骨が帰つたと聞き、母が受け取りに行きました。しかし、そこに父の遺骨はなく、木箱の中に砂袋と位牌の代わりとなる木札のみが入っていました。母は私たち子どもの前では涙を見せず、歯をくいしばってがんばっていました。父は大工だったので、母方の祖母に「戦争から帰ったら、天井を貼ってあげる」と言っていました。祖母はその言葉を信じて、「必ず帰って来る。それまで天井は貼らない」と、戦争が終わってもしばらくの間、父の帰りを信じて待っていました。亡くなった父の姿を見ていないので、何かの違いでひよっこり帰ってくるのでは？と思っていたのでしよう。

父がいない寂しさ

父が亡くなってから、祖父が父親代わりをしてくれました。4人兄弟の長男ということもあり、小学校3年生くらいになると、牛の世話や農作業、炭焼きの手伝いをさせられました。そして、早く社会人の経験をさせて一人前にしようと、秋祭りや葬儀など組合の勤めに駆り出されました。周りの子たちと違う環境に、小学校高学年から中学校にかけては、父のいないわびしさや寂しさを日増しに感じました。

森脇小学校の同級生は25人います

庄原市戦没者追悼式 並びに平和祈念式典

本市の戦没者に哀悼の意を表すとともに、再び戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、恒久平和を祈念するため、庄原市戦没者追悼式並びに平和祈念式典を次のとおり開催します。

多くの皆さんの参加をお願いします。

とき 8月20日(木)10時～

ところ 庄原市民会館

※当日は要約筆記による案内に加え、インターネットでの中継も行いますので、各学校、公民館(自治振興センター)などでもご覧いただけます。

※各支所からの送迎バスを用意しています。利用を希望される方は、8月19日(水)までに各支所に申し込んで



ください。(定員がありますので、ご希望に添えない場合はご了承ください。)

- 【問い合わせ】
- 社会福祉課障害者福祉係 ☎0824-73-1210
 - 西城支所保健福祉室 ☎0824-82-2202
 - 東城支所保健福祉室 ☎08477-2-5131
 - 口和支所民生生活室 ☎0824-87-2114
 - 高野支所民生生活室 ☎0824-86-2114
 - 比和支所民生生活室 ☎0824-85-3002
 - 総領支所民生生活室 ☎0824-88-3110



平成21年度補助金採択事業一覧表

(単位:円)

地域	自治振興区	事業名	事業概要	補助金交付額
庄	東自治振興区	地域の歴史・文化の編纂事業	昨年度作成した「東地区歴史散策マップ」を補完する「東地区の歴史」を小冊子にまとめ、地域内の文化遺産の継承と郷土愛の醸成を図る。	2,709,000
	東自治振興区	生活環境整備事業(花のみちづくり)	居住地域内の道路にスイセンを植栽し、地域内の景観形成に加え、地域住民の連帯意識の醸成を図る。	100,000
	北自治振興区	加工所整備事業	地域内で生産した大豆を利用し、地産地消の特産品づくりとして味噌づくりを行うため、加工所を整備する。	1,600,000
	山内自治振興区	里山整備の廃材で農業再生事業	里山整備により切り出される竹をパウダー状にする機械(チップパー)を整備し、竹パウダーや竹肥料を作り、減農薬の作物の生産に取り組む。	2,789,000
	庄原自治振興区	宮内の史跡案内看板等設置事業	昨年度作成したマップやそれに記載された文化財の案内看板を制作し、地域のPRを行う。また歴史的価値のある間歩の再現に取り組む。	410,000
	庄原自治振興区	フラワーロード整備事業	地区の道路沿いに季節の花を地域住民で植栽し、景観整備を行い、子どもから高齢者まで世代を超えた交流を図る。	101,000
	高自治振興区	高歴史街道整備事業	「つつじ山」に遊歩道を整備し、自然学習や歴史学習を行うことで、世代を超えてふるさとを思う心の醸成を図る。	901,000
	敷信自治振興区	敷信PR大作戦パートII事業	自治振興区の象徴として、区歌、区章、愛唱歌を制定する。区歌、区章は公募とし、審査し選考する。	370,000
	峰田自治振興区	青嶽山公園整備事業	平成19年度に整備した青嶽山公園への案内看板の設置や花の植栽を行い、より多くの方の憩いの場とする。	522,000
西城	今働会	大屋ふれあいサロン事業	これまで地域で行われてきた「大屋ふれあいサロン」事業の充実を図るため、視聴覚機器等の備品を整備する。	572,000
	久代中自治振興区	ふるさと産品加工所整備事業	地域にある休校の給食施設を加工所として整備し、地元産の野草等を使ったふるさと産品の開発に取り組む。	3,000,000
東	戸宇自治振興区	河内谷環境整備事業	東城インターチェンジから国定公園帝釈峡への経路でホテルの生息地に桜ともみじを植栽し、景観整備を行う。	243,000
	戸宇自治振興区	戸宇特産品生産販売事業	パソコン周辺機器を整備し、地域の加工販売や自治振興区事務の一括管理、処理の合理化を図る。	167,000
	東町自治振興区	保健福祉事業	これまでに独自事業として取り組んできた「100円サロン」で、介護予防(転倒予防)のため毎日続けられる運動を取り込み、交流の場を提供する。	182,000
	東城中町自治振興区	非常時緊急連絡板の作成事業	住民が安全に安心して暮らせる地域づくりのために、非常時緊急連絡板を全戸に設置する。	39,000
	為重自治振興区	為重福寿草の里整備事業	福寿草自生地周辺の歩道橋の設置及び駐車場、イベント会場の整備を行い、交流人口の増大、イベントの定着化を図る。	2,072,000
	帝釈自治振興区	帝釈自治振興区イベント施設整備事業	これまで取り組んできた地域の特産品の販売促進や、地域の活性化のため販促物を整備する。	310,000
	小奴可自治振興区	板井谷のコナラ周辺整備追加事業	昨年度に引き続き、県天然記念物に指定されている「板井谷のコナラ」周辺の公園に訪客用トイレや案内看板等を設置し整備を行う。	1,498,000
	小奴可自治振興区	花いっぱい運動(スクールゾーン)	平成22年春の小学校再配置を記念し、通学路へスイセンを植栽する「花いっぱい運動」に取り組む。	653,000
	大月自治振興協議会	黒岩城整備事業	黒岩城の山頂にあるあずま屋の改修やイベント広場などを整備し、各種イベントを開催して交流人口の拡大、定住促進を図る。	3,000,000
口和	湯木釜峰振興会	釜峰山整備事業	地域の象徴である釜峰山の中腹にある城跡までの遊歩道や周辺を整備し、観光や交流の推進、地域住民のコミュニティ、連帯感の醸成を図る。	2,959,000
	常定振興区	常定探訪マップ整備事業	地区内に多く残る遺跡や名所、希少植物などを掲載した地域内マップ看板を作成し、地域の歴史や文化をPRするとともに、郷土を愛する心を醸成する。	546,000
	福田元常自治振興区	桜街道整備・紫陽花の里づくり事業	福田頭登山道のルート沿いに植栽された桜並木を整備するとともに、観音滝周辺に紫陽花を植栽し、庄原一の紫陽花の名所を目指す。	409,000
高野	下門田自治振興区	下門田今昔マップ作成・昭和池周辺整備事業	高速度建設で地域の様相が変化中、地域の歴史を伝える「下門田地域今昔マップ」を作成する。また昭和池周辺の植栽や遊歩道を整備する。	539,000
	和南原自治振興区	R432和南原景観ロード整備事業	国道432号線沿線にスイセンを植栽し、地域住民や通行者の心やすらぐ景観を提供する。	1,201,000
	上湯川自治振興区	国道432号線沿線環境保全整備事業	国道432号線沿線の片側に花のプランターを、もう片側にスイセンを花帯となるよう植栽し、地域住民や通行者の心やすらぐ景観を提供する。	637,000
庄原(定住)	敷信自治振興区	敷信定住促進事業	地域出身者への定期的な情報発信やふるさと祭りへの呼びかけを行い、定住のきっかけをつくる。	185,000
	北自治振興区	北自治振興区定住促進事業	地域内の情報を出身者へ定期的に発信し、ふるさとを思い出すことで、定住への促進を図る。	79,000
				27,793,000



庄原自治振興区による街路樹整備

この補助金は、地域の将来像や地域課題の解決に向けた取り組みなどをまとめた「地域振興計画」に基づいて実施する事業に対して交付します。補助額は対象事業の4/5以内で、1事業の上限は300万円。毎年5月末を申請期限とし、審査会を経て採択されます。

解説
自治振興区活動促進補助金

地域課題の解決や地域づくり活動などを支援する「自治振興区活動促進補助金」の平成21年度採択事業が決定しました。本年度は24自治振興区から32事業の申請があり、審査会を経て28事業が採択されました。今回の特徴として、これまで取り組んできた事業を継続し発展させる事業、地域の歴史をカタチにしてPRする事業、特産品開発による収益事業などが多くありました。この5年間で、59自治振興区132事業を採択。着実に地域の夢がカタチになっていきます。



審査会が現地確認



事業内容を確認する審査会

審査会を終えて



魅力ある事業が多数申請
審査会 野原建一 会長

今年は例年以上に力作の申請書が、各自治振興区から提出され、すべて採択したい誘惑に駆られました。今後、事業実施する自治振興区は全市民から負託された重みを感じ、よき成果をあげられることを期待しています。

次世代へつなぐ活動を期待
自治振興課 木村豊彦 課長

これからの地域のあり方を見据え、各地域の象徴となる資源を活用し、地域内の一体感の醸成、地域外との交流拡大、収益事業への展開が図られています。地域の魅力を最大限に生かし、次世代に継承していける地域活動を期待しています。



次世代へつなぐ活動を期待
自治振興課 木村豊彦 課長

「エール庄原」が1周年

庄原ファンの拡大を目指す

商工観光課定住推進係
☎0824-731178

庄原市のふるさと応援団「エール庄原」が発足して1周年を迎え、「エール庄原」のPR強化と会員数の増加を図り、庄原ファンの拡大を目指します。

この「エール庄原」は、市出身者や庄原ファン、さらには市民などでネットワークを作り、イベントや交流、情報交換などを通じて、庄原市の活性化へ役立てる会員組織を目指しています。また、中国新聞社の会員組織「ちゅーピーくらぶ」と提携し、各種施設で割引サービスが受けられるなど、豊富な特典を利用することができます。

この1年間で、県外の市出身者を中心に約300人が「エール庄原」に入会。会報の発行や、広報紙の郵送(有料)など、ふるさととの情報を発信してきました。

今後、中国新聞社の協力を得て、庄原市をPRする募集企画や、メルマガの発行などを行っていきます。市民の皆さんも、この機会にぜひご入会いただき、親戚や知人・友人に「エール庄原」への入会をお勧めください。

「エール庄原」1周年企画

●会員組織のネットワークを活用した地域振興へのワンステップ
「ちゅーピーくらぶ」と「エール庄原」が協力。地域の事業者ともネットワークを築きながら、庄原の新たな魅力発掘、地域振興を目指します。

●女性の口コミ効果による盛り上げ
会員組織のネットワークの中で、特に女性会員である「ちゅーピーママ」が参加する企画を展開し、女性の口コミ効果による庄原ファンづくりを狙っています。

●「エールプラス」協力店開拓のための環境づくり
ちゅーピーくらぶ加盟店の割引などに加え、さらに特産品プレゼントなどプラスアルファのサービスを提供する「エールプラス」協力店開拓をサポートするための環境づくりを目指します。

「エール庄原」会員特典

●ふるさと便りを届けます。懐かしいふるさとの味・お得な商品の紹介や楽しいイベント情報をお届けします。
●「エール庄原」に申し込みされると、

【お詫び】 市職員の逮捕について

7月15日、市水道課の職員が詐欺容疑で逮捕されました。
あってはならない事件を起こし、
市民の皆様に心からお詫び申し上げます。

平成19年度、水道課が発注した庄原市東城町の「川西浄水場機械電気設備改修工事」に関して、約520万円を水増しした約680万円分の追加工事を実施する必要がある旨の虚偽の工事変更伺いを作成。市から工事代金を受注業者の口座に振り込ませ、業者からパソコンやカメラなどを受けとったという詐欺の容疑です。

この事件は、市民の皆様の信頼を裏切る行為であり、誠に残念です。

原因を究明するとともに再発防止策を講ずることにより、二度とこのような事件が起きないようにします。

関係者の処分につきましては、捜査の結果を待って、厳正に対処していくとともに、今後、職員一丸となって信頼回復に努めてまいります。

庄原市長 滝口季彦

同時に中国新聞「ちゅーピーくらぶ」に入会でき、約4000店舗の割引など「ちゅーピーくらぶ」の特典を受けられます。
●希望者には、「広報しようばら」をお届けします。(有料サービス年額2000円)
●ちゅーピーくらぶの特典に加えて、特産品のプレゼントなど「エール庄原」独自のサービス、「エールプラス」の特典を受けられます
●会員向け交流会の情報をお届けします。

【入会手続き】

申込書に必要事項を記入し、商工観光課へ提出してください。申込書は庄原市ホームページからダウンロード

できるほか、「ちゅーピーくらぶ」ホームページからも申し込みできます。
ちゅーピーくらぶ会員が「エール庄原」に入会すると、

エール庄原のマーク「ヒバゴン」のシールが届きます。ちゅーピーくらぶ会員証に「ヒバゴン」マークを貼り、提携会員証とします。

※会員証、シールの送付には1カ月程度かかる場合があります。



あなたのアイデア大募集

「ヒバゴンの古里を売るうー!」

庄原特産の食材を使った新たな①土産物、②名物料理、③庄原定住のキヤッチフレーズの3部門でアイデアを募集します。集まったアイデアは、「ちゅーピーママ」や専門家などが審査。土産物や名物料理は、実際に作ってみて優秀なアイデアを決定し、商品化を目指します。

「ちゅーピーママ」たちの審査の様子や、決定したアイデアは「エール庄原」のホームページで紹介いたします。

募集期間 8月31日(月)まで
応募方法 「エール庄原」ホームページから専用フォームで受け付けます。
特典 各部門の上位3名にすぎない賞品を送付します。
特産食材の候補 夏イチゴ、トマト、アイスクリーム、そば、エゴマ、米粉、キムチ、牛肉、牛乳、こんにゃく

子育ての力強い味方

—子育て推進委員—



庄原地域の子育て支援センターに手作り看板を設置する
庄原地域子育て推進委員

市が委嘱する「子育て推進委員」は、市内各地域の子育て支援センターと連携し、子育て支援のあり方の検討や、支援事業のサポートを行うなど、子育て支援の推進を図るための活動をしています。

各地域で行う子育て支援の催しなどにも参加しています。どうぞお気軽に声をかけてください。

問い合わせ
女性児童課子育て支援係 ☎0824-73-0051
または各支所保健福祉室・市民生活室

【口和地域】

石田 礼子	永 田	早井 千波	金 田
岡田千代子	湯 木	深井 蘭美	向 泉
奥田真夕子	金 田	山田 昌子	向 泉

口和町内のイベントで開設している「授乳・オムツ替えスペース」や「子ども服のリサイクル広場」は、パパ・ママに大好評です。お子さんを遊ばせながら、子育て情報を見てもらえるようにしていますので、親子で遊びに来てくださいね♪

【高野地域】

赤水 高子	新 市	坂口 薫	上湯川
小川美代子	新 市	柳原 初美	上里原
草谷真佐子	高 暮	山本キナエ	和南原

乳児健診や乳児相談へ参加し、子育て中のお母さんとお話をさせてもらい、子育てに関する悩みや不安などを聞き、少しでもお役に立てることがあればと思っています。いつでもお気軽に声をかけてください。

【比和地域】

垣元万亀夫	森 脇	豊浦 順海	比 和
小林 賢子	三河内	藤井 力	古 頃
周藤 美佳	比 和	森田 一宜	比 和

子どもは、家庭はもちろんのこと『地域・社会で育つ』との思いから、話し合いの場を設け、活動の検討や、各地域の情報交換を行って、子育て支援に取り組んでいます。

【総領地域】

秋山 義治	亀 谷	竹口ひとみ	黒 目
加藤 冷子	亀 谷	平田 裕子	亀 谷
佐々木照美	木 屋		

子育て支援事業に参加して、子育て家庭や地域との交流を広げ『楽しく子育てができる総領町』にしていこうと、推進委員一人一人が楽しみながら活動をしています。

【庄原地域】

青木ルリ子	三日市町	松村 敏子	西 本 町
角場 裕美	三日市町	森信 廣子	川 手 町
清水小代子	門 田 町	森原 愛子	掛 田 町
住田 則雄	上 原 町	森元 静美	板 橋 町
田邊 昭代	西 本 町	山下 敦子	三日市町
谷口 道子	上 原 町	横山 桂子	戸 郷 町
寺西 玉実	山 内 町		

地域内の子育て支援施設に、自然木の手作り看板を設置しました。看板の中には「アリさん」が10匹います。子どもを育むみんなが、笑顔で「ありがとう」を伝え合える地域にしたいと願っています。

【西城地域】

片山 良子	小 鳥 原	西野真希子	八 鳥
五島 直美	西 城	堀川 富子	西 城
神本 久美	入 江	前田マツ枝	三 坂

西城の子育て支援施設に、子どもたち、保護者の皆さん、地域の皆さんが気軽に集い、笑顔の輪が広がるよう願っています。地域との交流会などを計画し、地域の中での子育て応援をしていきたいと思っています。

【東城地域】

井上 尚美	川 東	藤本 聡	粟 田
片島 富子	久 代	谷口 明子	帝釈宇山
牧田 繁喜	塩 原	松尾 直美	川 東

子育て「おさんぽマップ とことこ」
東城地域の子育てに関係のある民話や伝説を、地図や写真などを入れて、親子でお散歩に出かける時、役立ち、楽しめる冊子にしようと製作中です。

申請はお済みですか？ 手続きはお早めに！

児童扶養手当現況届

特別児童扶養手当所得状況届

現在、児童扶養手当や特別児童扶養手当を受けている方(所得制限で手当を受けていない方を含む)は、必要書類、印鑑などを持って、次の期間中に女性児童課または各支所保健福祉室・市民生活室で現況届、所得状況届の手続きをしてください。

期間内に手続きをしないと8月分以降の手当が差し止められるほか、この手続きを2年間しないと時効により受給権がなくなりますのでご注意ください。

新たに該当すると思われる方はお問い合わせください。

【受付期間】

8月31日(月)まで
〈児童扶養手当〉
8月11日(火)～9月10日(木)
〈特別児童扶養手当〉

●児童扶養手当

父母の離婚、父の死亡、未婚などにより父と生計を別にする児童を監護している母、または母に代わって養育している方などに対して支給される手当です。(ただし遺族年金などの公的年金を受給されている場合は対象にはなりません)
※児童の対象年齢は、18歳に達した年度の年度末(3月31日)まで。ただし、児童に中度以上の障害がある場合は20歳まで。

●特別児童扶養手当

精神または身体に障害のある20歳未満の児童を養育している方に支給される手当です。
問い合わせ 女性児童課児童福祉係 ☎0824-73-1192

定額給付金

住民の生活支援と地域の経済活性化を目指した国の定額給付金の申請期限は、9月28日(月)までです。

給付額は1人1万2000円。本年2月1日現在で、18歳以下と65歳以上の方は1人2万円です。
申請をされない方は、お早めの申請をお願いします。
問い合わせ 市民生活課生活安全係 ☎0824-73-1154 または各支所市民生活室

平成20年度版「子育て応援特別手当」

多子世帯の幼児教育期の子育てを支援する「子育て応援特別手当」の申請期限は、10月15日(木)までです。
この手当は、対象児童1人当たり3



万6000円です。

庄原市の住民基本台帳などで対象になると判断される世帯には4月中旬に申請書を送付しています。しかし、別居をしているなど住民基本台帳で確認できなかった場合は申請書を送付していません。今一度、受給条件をご確認いただき、条件を満たしているのに申請書が届いていない世帯がありましたら、至急、女性児童課へご連絡ください。

○受給できる人

本年2月1日現在で対象となる児童がいる世帯の世帯主(ただし、庄原市の住民基本台帳または外国人登録原票に記載されている人)。

○対象児童

第2子以降の児童で、生年月日が平成14年4月2日～平成17年4月1日までの児童。第2子以降の判定は、平成21年2月1日現在の世帯員で生年月日が平成2年4月2日以後の児童の中から年齢順に、第1子、第2子と数えていきます。

※就学などの理由で、平成2年4月2日以後に生まれた児童が別居していても、その他の児童と同じ人に扶養されている場合は、第2子以降の判定の際、数に入れることができる場合があります。

問い合わせ 女性児童課児童福祉係 ☎0824-73-1192

52.5%が見直し対象路線 生活交通再編 「実施計画」を策定

市民生活課生活安全係 ☎0824-73-1154

市は、昨年10月に策定した「庄原市生活交通ネットワーク再編計画」を基本に、具体的な行動計画となる「実施計画」を策定しました。

この計画では、新たな生活交通の導入や路線の見直し方針、再編スケジュールを明示しており、運行実績などに基づいて、毎年見直すことにしています。

市は1年間の調査で、収益率と乗車密度の低い見直し対象路線を全体の79.7%と算出。このうち通学に利用されている路線を除いた52.5%について、地域住民や利用者の皆さんの声を集約しながら、車両の小型化や運行形態の変更など、地域にとって最適な生活交通の確保に向けて取り組みを進めます。

市民タクシーの試験運行を実施

市は、生活交通を確保するため、新たに「市民タクシー運行事業」の制度化に向け、7月～9月の3カ月間、試験運行を実施しています。

この市民タクシー運行事業は、自治振興区が事業主体となり、タクシー事業者と運行契約を結び、移動手段を確保する取り組みに対して支援するもの。市は運行に係る費用の3/5を補助することとしています。

試験運行の結果を踏まえ、現在検証している制度の内容を十分に検証した後、新たな補助事業を制度化する予定です。



帝釈自治振興区で始まった市民タクシーの試験運行

浄化槽で 美しい環境づくり

下水道課管理係 ☎0824-73-1175

近年、川や海などの汚染が問題となつていますが、その大きな原因に私たちの家庭から出る「生活雑排水の汚れ」があげられます。

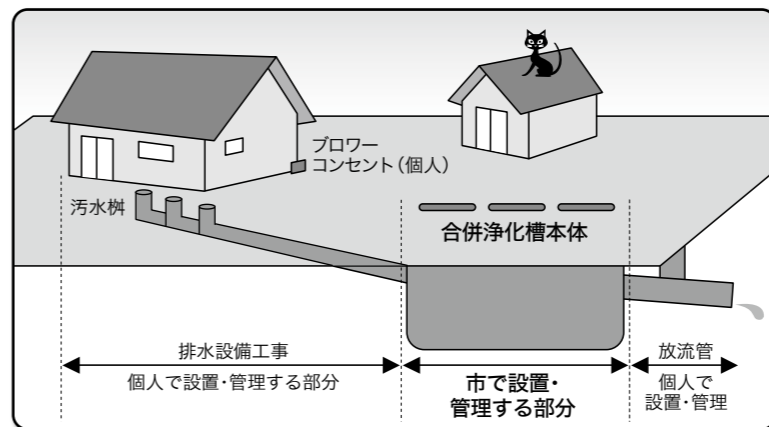
このため、市は公共下水道事業・農業集落排水事業区域を除く地域で「市町村設置型浄化槽」の整備を行つていきます。合併浄化槽は、し尿と生活雑排水の両方を処理することができ、処理水のBOD(汚水の中に含まれる汚濁物質)を1/10以下に減らすことができます。

合併浄化槽の設置を希望される方は、下水道課または各支所環境建設室へお早めにご相談ください。

本年度の申請期限は9月30日(水)です。なお、予定基数に達し次第申し込みを締め切ります。

市町村設置型浄化槽事業概要

- 市の負担
浄化槽本体の設置費用・浄化槽の維持管理費。
- 施主の負担
分担金30万円・排水設備工事費・浄化槽用地に係る固定資産税。
毎月の使用料・浄化槽ブロワーの電気料金・浄化槽清掃などに係る水。



●施業者

市内に営業所を設けている「庄原市下水道排水設備指定工事店」のうち、「広島県浄化槽工事業」または「広島県特例浄化槽工事業」の登録を行っている者。

※対象は住宅のみで、事業所などは含まれません。

庄原市職員を 募集

●採用職種、採用予定人員および応募資格

職種	採用予定人員	応募資格
一般事務職	若干名	●昭和54年4月2日から平成4年4月1日までに生まれた人
技術職(土木)	若干名	●昭和54年4月2日以降に生まれた人で、申込時に1級または2級建築士の資格を有する人
技術職(建築)	若干名	

※1受験者につき1職種しか受験できません。 ※全職種とも学歴は問いません。

●申込手続

- ①試験案内・申込書の配布場所
総務課人事秘書係、各支所地域振興室
- ②インターネットの利用
市ホームページ(http://www.city.shobara.hiroshima.jp)に掲載中の試験案内からA4版用紙に印刷してください。
- ③郵送による請求
庄原市総務課人事秘書係(〒727-18501 庄原市中本町一丁目10番1号)あてに返信用封筒を同封し

てご請求ください。

◎総務課人事秘書係あての封筒の表には「試験資料請求」と朱書きしてください。

◎返信用封筒(角形2号/縦33.2cm×横24cm)にあて先を明記し、120円切手を貼ってください。

②提出書類

申込書に必要事項を記入し、添付書類と併せて総務課人事秘書係へ提出してください。

③申込締切

8月21日(金)
郵送の場合は8月21日消印有効
※詳しくは、「平成21年度庄原市職員採用試験案内」をご覧ください。

●試験の方法

試験は第1次試験および第2次試験とし、第2次試験は第1次試験の合格者について行います。

【第1次試験】：全職種
試験日/9月20日(日)
8時10分 受付開始
試験会場/庄原市ふれあいセンター
試験科目/教養試験、事務適性検査、作文試験

【第2次試験】：全職種
試験日、会場 試験内容は、第1次試験合格者によりお知らせします。

●採用予定年月日

平成22年4月1日採用予定

●問い合わせ

総務課人事秘書係
☎0824-73-1125

参加者募集!

男女の出会い イベント

カーブ応援ツアー

カーブ球団の全面協力により、普通にはちよつと味わえない応援ツアーが楽しめます。気軽に楽しく球場デート気分を観戦しよう。

とき 9月5日(土)10時

(散会時刻は試合の終了時刻により異なりますが、概ね21時を予定)
定員 独身男女各20人

参加費
男性3000円、女性2000円

オートムバーパーティー

市と庄原グランドホテル、庄原市社会福祉協議会の共催で、地域のお世話好きの人と独身者が集まってパーティーを開きます。

独身の方を誘って一緒に参加ください。

とき 9月12日(土)18時～20時

ところ 庄原グランドホテル

参加費 2000円

自然遊び体験ツアー

西城町の採れたて新鮮食材を使つて、県民の森でアウトドアッキング! 詳細は後日発表します。

とき 10月3日(土)

ところ 県民の森

定員 独身男女各20人

参加費 未定

申し込み・問い合わせ

商工観光課定住推進係
☎0824-73-1178

安心・安全な毎日のために

災害に備えよう!

9月1日は「防災の日」です。この日は大正12年9月1日に関東大震災が発生した日にちなんで制定され、8月30日から9月5日までの1週間を「防災週間」と定められています。

最近では、平成20年6月14日に岩手宮城内陸地震が発生し、尊い人命や貴重な財産が失われています。

また、この時期は気象用語で「210日」にあたり、台風が襲来するといわれ、集中豪雨などによる災害が発生する恐れがあります。

いっ、どこで、どのような災害が発生するか分りません。今一度、家庭や職場で「防災」について話し合っておきましょう。

- 避難場所や避難経路を確認しておきましょう。
- テレビやラジオなどで気象状況を確認しておきましょう。
- 家の補強や排水路などの掃除をしておきましょう。
- 非常食や非常持ち出し品を用意しておきましょう。
- 家庭内や職場などで役割を決めておきましょう。

庄原消防署 ☎0824-721-9911
東城消防署 ☎0847-214005

9月6日は「救急の日」

9月9日は「救急の日」です。また、9月9日から15日までの1週間を「救急医療週間」と定められています。

消防署では、市民の皆さんに救急医療や救急業務の正しい理解と認識を深めていただくために、各種講習会やイベントなどを行います。

病気やけがは、いつ、どこで起きるか分りません。もしもの時にあわてず適切な応急手当を行うために、職場や地域で救急救命講習やAEDを用いた救急教室をされてはどうですか。ご希望の方は、お近くの消防署にお気軽にお問い合わせください。



県大会上位入賞を目指し猛練習

がんばれ! 庄原市消防団庄原方面隊

広島県小型ポンプ操法大会の上位入賞を目指し、庄原市消防団庄原方面隊が練習に励んでいます。

4年に1度開催される県大会は、県内14市5町から24チームが出場予定。4人で編成されたチームが可搬ポンプを使用し、ポンプ操作や放水操作を行い、火点標的を倒すまでの所要時間と安全確実性を競います。

庄原市を代表して県大会へ出場する選抜選手は、昨年の庄原支部大会で優勝した山内西分団と第3位の数信分団のメンバー8人。大会直前までチーム内で競争し、レギュラー4人を決定します。

県大会に向け、4月から週2回の練習を再開。仕事を終えた選手は庄原中学校グラウンドに集合し、19時〜21時30分まで汗を流しています。選手は宮脇弘明県指導員から厳しい指導を受けるとともに、2人ペアで基本動作を指摘し合いながら技術を磨いています。また、毎回応援団員が約40人かけつけ、ホースを巻くなど選手をサポートしています。

チームリーダーの宮本和則選手は「真夏の暑い中、仕事帰りの練習はかきつ。しかし、家族や職場、多

くの団員に支えてもらっているので、庄原市から初めての県大会上位入賞を目指してがんばりたい」と話しています。

7月からは練習日を週3回に増やし、今後さらに厳しい練習を続けていきます。練習の成果が十分に発揮されるように、市民の皆さんの温かい声援をお願いします。

とき 9月9日(水)

ところ 広島県消防学校グラウンド

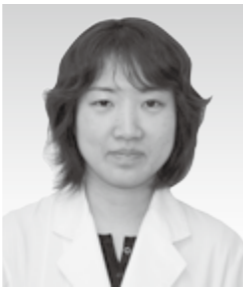
選抜選手

岡田信行、田森祐行、藤谷 稔、宮本和則、藤田慶一、磯野誠二、池田陽介、近保登美章



選抜選手の8人

「糖尿病なんて怖くない」



西城市民病院 内科医長

うえ だ あき こ
上 田 晶 子

「糖尿病という病気は、知らない人がほとんどいないくらい有名な病気になってしまいました。しかし、名前は知っていても、実際に何がどういう状態になる病気かはつきりと答えることができる人は少ないと思います。そこで今回は、皆さんと確認していきたいと思います。」

「糖尿病と診断される人は、次①②③のいずれかにあてはまる人が糖尿病と診断されます。」

- ①朝何も食べていない状態の血液中の糖が126mg/dl以上
- ②病院で75gの糖入りのジュースを飲んで、2時間経っても血液中の糖が200mg/dl以上
- ③食事と関係なく血液中の糖が

200mg/dl以上

「なぜ、血液中の糖が上昇するといけないの?」

血液中の糖はホルモンなどの調節によって100mg/dl前後に常に保たれているのが正常です。

しかし、常に血液中の糖が高い状態になると小さな血管の障害が起こり始めます。

それが、糖尿病で生じる合併症です。眼の網膜や腎臓の血管、神経へ栄養を送る血管が異常を来します。ひどくなると眼が見えなくなり、人工透析が必要となります。また、常に足がジンジンと痛くなります。

さらに悪化すると、大きな血管も異常を来してきます。頭の血管にくると脳梗塞・脳出血、心臓の血管にくると心筋梗塞です。

「糖尿病になるのを防ぐためには?」

糖尿病は進行して、ひどい状態にならなければ自分で感じることもできません。そのために、少なくとも年に1回は健診を受け

「糖尿病にならない生活習慣を!」

日常生活を見直し、できることから改善することが大切です。

食事ではまず、コレステロールが上がりにくい油や減塩のしょうゆ、味噌を使うことが大事です。それだけで簡単に健康的な食事へ変えることができます。また、酸味や香辛料を生かすと塩分が少なくておいしく食べられます。食事の成果を確認するには、毎日体重を測定して前日と比べて大きく変わっていないことを確かめることが自己管理できるポイントです。

運動は1回15〜30分を1日2回毎日行うことが理想的です。しかし、毎日行うことが難しい人は、少なくとも1週間に5日以上1回30分間の運動を行うと効果は出ます。運動の強さは安静時の1分間

の脈拍数に30回足した脈拍数になるくらいの運動が良いです。例えば1分間の脈拍数が60回の人には60+30なので、1分間に90回脈拍がうつくりの運動を行うこととなります。

もちろん心臓が悪い人などは運動が体に悪影響を及ぼす場合があるので、その場合は主治医と相談して行うようにしましょう。

「定期健診が大切です」

糖尿病は1度なってしまうと一生付き合っていかなければいけません。

糖尿病の診断を受けたあとに食事や運動でがんばって良い血糖の状態を作っても、新しく他の病気やストレスを受けたときに悪くなる可能性が大きいからです。

しかし、病気に対して逃げなければ、今はいい治療薬がたくさん開発されています。糖尿病になりたくないな...と思うだけでなく、定期的な健診を受けることがいい状態のままで年齢を重ねることができカギになります。今年からでも遅くはないので定期健診を受けましょう!!



城所
東支

「東城のまちづくり」が大賞 中国地方地域づくり等助成事業報告会

各団体のまちづくりを競う「中国地方地域づくり等助成事業報告会」(主催/財団法人中国建設弘済会)が6月20日、広島市で開催され、東城まちなみ保存振興会が大賞を受賞しました。

この報告会に、平成20年度に助成事業を行った中国地方の33団体から選ばれた11団体が参加。庄原市の「東城まちなみ保存振興



東城のまちづくりを紹介する東城支所職員

会は、城下町東城を再現した「箱庭」や、まちなみを照らす「灯籠」、酒蔵を改装した「ギャラリー」などを紹介。「まちなみふらり散歩ギャラリー」を中心に、住民と行政が協働して市街地のにぎわいづくりをした様子を、写真を交えて発表しました。

審査員から「東城は何度も訪れているが、ホップ・ステップ・ジャンプで着地するのではなく、さらにステップし続けている。その東城の力は素晴らしい」など、参加団体の中で最も高い評価を得ました。

野所
高支

「たかの温泉」が入館10万人を達成 社協高野センターが記念セレモニー

たかの温泉「神之瀬の湯」が7月4日、入館者10万人を達成しました。これを記念し、指定管理者の庄原市社会福祉協議会高野地域センターが手作りのセレモニーを行い、10万人目となった野村登代さん(三次市)へ奥田久美子センター長から花束や高野町の特産品が贈られました。また、10万人達成を祝い、この日の来館者にタオルが配られました。

友人と高野町へ観光に訪れたという野村さんは思いがけないセレモニーに感動した。初めて訪れたが、お肌がスベスベのとても良いお湯で驚いた。知人を誘ってまた来たいと喜んでいました。

たかの温泉「神之瀬の湯」は、平成16年10月にオープンし、健康増進施設として年間約2万2000人に利用されています。



敷信自治振興センターで行われた市政懇談会

企画課

市管理職と市民が直接対話 市政懇談会がスタート

ちづくり「クラスターのまち実現プロジェクト」について説明し、市民の皆さんと意見交換しました。

参加者から財政健全化や環境問題、自治振興区の役割などについて、活発な意見が出されました。

この市政懇談会は9月7日まで、市内18会場で行います。

城所
東支

東城市街地の活性化策を探る シンポジウム「歴史・文化を活かしたまちづくり」

シンポジウム「歴史・文化を活かしたまちづくり」を6月22日、東城市街地の旅館「三葉荘」で開催しました。

地域住民をはじめ広島市などから約130人が参加。東城の町並みや建造物の素晴らしさを共有し、まちづくりへの意識を高めました。

シンポジウムでは、県立広島大学の野原建一名誉教授が、広島大学大学院の三浦正幸教授が行った「建造物調査」をもとに、市が保存活用を決めた三葉荘の価値について報告。次いで京都造形芸術大学の石養一教授が「町並みから見た東城の力」と題して講演し、東城の可能性や魅



学識経験者などによるパネルディスカッション



出場者を代表し曾利亮平さんが決意表明

力を紹介しながら「誰もが町並みを貴重な地域資源と認識し、それを活かすことが必要」と呼びかけました。

パネルディスカッションでは住民代表や学識経験者などの5氏が、それぞれの立場から「東城のまちへの思い」や「まちづくりへの取り組み」について語りました。

6月26日には、「東城市街地活性化事業拡大市民会議」を市役所東城支所で開催し、地域住民約90人が参加。市が進める市街地活性化事業を説明し、意見交換を行いました。

生涯学習課

大舞台での活躍にエール 全国大会等出場者壮行式

世界大会・全国大会へ出場する選手の壮行式を7月22日、市役所で行いました。

出場選手12人をはじめ関係者や家族などが出席。滝口季彦市長をはじめ3人から「日ごろ鍛えた実力を遺憾なく発揮してください」と激励のあいさつを受けました。

選手を代表して、全国中学生空手道選手権大会へ出場する曾利亮平さんが「日ごろの練習の成果を発揮し、悔いの残らないよう入賞目指してがんばります。そして庄原の名を全国にPRします」と決意表明しました。

また、祝金と花束の贈呈、万歳三唱が行われ、出場者を祝福しました。

大会出場者(敬称略)

- ユニバーシアード競技大会(競泳女子200メートル平泳ぎ)
- 金藤理絵(東海大学3年)
- 世界水泳選手権大会(競泳女子200メートル平泳ぎ)
- 金藤理絵(東海大学3年)
- 全国高等学校総合文化祭(写真部門)
- 得納千穂(庄原格致高3年)
- 今中美里(庄原格致高3年)

- 池田萌乃(庄原実業高2年)
- 全国高等学校総合体育大会(剣道団体戦)
- 大塚雄也(沼田高3年)
- 全国高等学校総合体育大会(陸上競技男子1500メートル走)
- 藤川拓也(世羅高2年)
- 全国中学生なぎなた大会
- 足立龍邦(庄原中3年)
- 森本真由子(西城中3年)
- 全国高等学校定時制通信制陸上競技大会(砲丸投げ)
- 大元理宏(三次高3年)
- 全国中学生空手道選手権大会
- 曾利亮平(庄原中3年)
- 新井孝平(庄原中3年)
- 福原愛美(庄原中3年)
- 渡 祐奈(庄原中3年)
- 早田知孝(庄原中2年)
- 早田萌々(庄原中1年)
- ねんりんピック(卓球交流大会)
- ねんりんピック(マラソン交流大会)
- 波多伸樹(高町)





ぐるり庄原 Look Around Shobara Camera Report カメラレポート

各地で行われたイベント&話題をお届けします。

REPORT ④

危険物の安全意識を高める 備北消防「油漏れ想定訓練」



▲点検箇所を確認する参加者

庄原消防署高野出張所が6月16日、神野瀬川で「油漏れ想定訓練」を行い、消防署員や市役所高野支所職員、温泉管理者など15人が参加しました。

訓練は、「たかの温泉」のボイラー用地下タンクから油が漏れ、神野瀬川へ流出したことを想定。川の中にオイルフェンスを張り、吸着マットを敷き詰めるなど本番さながらに行われ、消防署員の迅速な作業と手際の良さに見守った参加者は感心していました。

訓練後は、実際に事故が発生した場合の対応の仕方や、地下タンクの点検箇所などを梅木隆司所長が指導。温泉管理者の須安登茂美さんは「事故がないように点検に努めたい」と気を引き締めていました。



▲吸着マットを敷く消防署員

ホタル見カフェオープン サムディシェフの青空カフェ

REPORT ⑤

6月27日、西城町大屋地域の自治振興区「今櫛会」が毎年開催しているホタル見会にあわせて、青空カフェがオープンしました。

青空カフェとは、西城の美しい自然の中で、地元の産物を生かしたカフェを開こうという試みで、西城地域で取り組むクラスターのまちづくり実現プロジェクトのワークショップ「西城円卓会議」から生まれたアイデアです。呼びかけに応じて、手づくりの料理やお菓子で人をもてなすのが大好きな人、いつかは飲食店を開きたいという夢を持つ人など14人のサムディシェフが集



▲「食材も料理の腕も最高」と感心する参加者

まりました。

青空カフェでは、西城産の野菜や果物を中心に食材を集め、「夏苺のロールケーキ」や「ごぼうのガトーショコラ」、「グリーンアスパラの冷製スープ」など6品のメニューを用意。地域内外から集まった参加者は、地域食材との新しい出会いとホタルの乱舞を満喫しました。

100食分を完売したメンバー

は「大好きな料理を通して、地域の元気作りに役立てるのがうれしい。次回はもっとレベルアップするようみんなでがんばりたい」と今後の抱負を話していました。

REPORT ⑥

新庁舎で初ライブを開催 シティーホールライブ in TANABATA



▲2階で立見が出るほどの人気

新庁舎を市民の憩いの場にしようと、市内の社会人や大学生17人が7月3日、市役所で「シティーホールライブ in TANABATA」を開催しました。

会場には七夕にちなんでササを飾り、浴衣を着て演奏。「千の風になって」「未来予想図Ⅱ」など10曲を披露し、ピアノやギター心地よい音色と透き通る歌声がホール全体に響きました。

ライブ実行委員の山口雪子さんは「市民ホールはとってもいい雰囲気なので、もっとたくさんの方々ライブを企画してほしい」と話していました。

市民ホールの利用は総務課行政係(☎0824-73-1123)まで。

REPORT ①

やさしい音色と光に包まれる 総領保育所「ホタル見コンサート」

ホタル見コンサートが6月19日、総領保育所で開催されました。

保育所前の田総川に無数のホタルが飛び交うこの時期、美しいほたると、やさしい音色のフルートコンサートで、ゆったりとした時間を過ごしてもらおうと総領保育所と総領子育て支援センターが企画しました。



▲ペットボトルで作った巨大なホタル

園児や保護者、子育て支援センターに集う親子や地域住民約150人が参加。園児がペットボトルで作った巨大なホタルや、ランプなどの「光のオブジェ」が園庭にライトアップされる中、コンサートやホタル見散策を楽しみました。

コンサートは地元のフルートサークルが、子どもたちが良く



▲フルートサークルの演奏

知っている曲や星にちなんだ曲など約10曲を演奏。また、子育て推進委員の竹口ひとみさんによる指導で、麦わらのほたる籠作りが行われ、味わいのあるほたる籠ができました。

保護者は「フルートの音色がきれいだった。来年もぜひ開催してほしい」と話していました。

地域つなぎ笑顔広がる子育ての輪 東城スマイル交流会

REPORT ②



▲「しゃぼんくん」の周りで遊ぶ子どもたち

子育て家族や地域住民の交流を図ろうと、第3回「スマイル交流会」が6月22日、東城児童健全育成施設「こどもの館」で開催され、親子連れや保育園児など約300人でにぎわいました。

東城地域子育て支援センターの主催で、子育て推進委員・応援団や民生委員児童委員、育児サークル、放課後児童クラブなどが協力。手作りおもちゃ、しゃぼん玉、育児相談、バザーなどの催しが行われました。

しゃぼん玉コーナーでは、しゃぼん玉おじさんの法谷好雄さんが、しゃぼん玉自動発生器「しゃぼんくん」を使い、たくさんのしゃぼん玉を空高く飛ばしました。訪れた子どもたちは「しゃぼん玉が次々に出てきてびっくりした。しゃぼんくんに負けないように、みんなていっぱいしゃぼん玉を飛ばして楽しかった」と話していました。

REPORT ③

ミュージカル体験で笑顔いっぱい 口南小が芸術鑑賞会

口南小学校の芸術鑑賞会が7月10日、同校体育館で行われました。今回はミュージカルを体験してみようと、「庄原市こどもミュージカル」の演出などを手がける増田明さんら10人を招待。子どもたちは、ミュージカルの練習にも取り入れている「ボディートーク」を体験したり、小演劇を見たり、臨場感あふれるステージを楽しみました。

最後に子どもたち全員が笑顔いっぱいで「怪獣のパラード」を踊ると、保護者から「とても楽しそうな笑顔が見られた。来年はこどもミュージカルに挑戦させようかな」などの声が聞かれました。



踊りを楽しむ子どもたち ▶

REPORT ⑩

都市住民と伝統行事を楽しむ

越原で「ちまきづくり体験」

半夏のちまきづくり交流会が7月5日、ふれあいの里越原で開催されました。

比和町越原では、1年のちょうど真ん中にあたる日を「ハング」といい、しょうぶ酒やちまきを食べて農作業の疲れをいやす風習があり、この伝統的な行事を次世代へつないでいこうと毎年交流会を企画しています。

この日は、呉市や広島市などから22人が参加。地元住民が指導しながら、地域のもち米やクマザサを使い蒸しあげ、山菜料理などとともに、地元ならではの味を楽しみました。



▲地域に自生するクマザサを準備する



▲ちまきづくりを体験する参加者

参加者の中には「毎年楽しみに参加させていただいている。笹の香りのするちまきのおいしさは、もち好きにはたまらない」と話していました。

保育所などで修繕ボランティア
広島県建設労働組合が「住宅デー」

REPORT ⑪

建設労働組合では、奉仕活動を行う日として6月25日を「住宅デー」とし、この日を中心に各地域で、技術奉仕活動を展開しています。

市内では、12地域連合庄原の61人が、地域ごとに6月25日～28日に実施。高野・口和地域で「ひとり暮らし高齢者の住宅修繕」、庄原・東城・西城地域で「保育所の修繕」などに取り組みました。

東城地域の田森・八幡保育所と子育て支援センターでは、ままごと台・玄関コンクリートの修繕、砂場の日よけなどを整備。翌日、保育所には「わー変わるとる！」「きれいになっとる！」など子どもたちの歓声が響き、職員は「子どもたちにとっての環境の大切さを実感した」「大変ありがたく感謝している」と喜んでいました。



▲田森保育所のままごと台を修繕

REPORT ⑫

西城比和線の一部開通を祝う
健康づくりウォーキング

健康づくりウォーキングが6月21日、主要地方道西城比和線の一部開通区間をコースに開催され、地域住民約120人が参加しました。

健康運動指導士の金子昌子さんの指導で、比和のまちなか約3キロを無理なくウォーキング。気持ちのいい汗を流した後は、「あけぼの荘」に設置された「足湯Deジェット」で、日ごろの疲れをいやしていました。

参加者には、女性防火クラブによる豚汁・おにぎりなどが配られ、参加した豊浦奈美さん(比和中1年)は「いい汗をかいて、おいしい豚汁を食べて、とても楽しかった。また参加したい」と話していました。



▲あけぼの荘前を出発する参加者



▲大釜で豚汁を作る女性防火クラブ

REPORT ⑦

無線放送で安心・安全なまちづくり

川手地区エリアトーク設置事業竣工式

昨年度、地域情報無線伝達システム「エリアトーク」を整備した川手地区が6月20日、川手上集会所で竣工式を行いました。

このエリアトークは、災害時の緊急連絡や自治会のイベント情報などを放送するもの。市の自治振興区活動促進補助金を活用し、川手上、川手沖、川手中、川手下の4自治会が約2,000万円をかけて整備。それぞれの集会所に設置した送信機から、川手地区約330世帯へ配布した受信機に情報を伝達します。

式には滝口季彦市長や地域住民など約50人が出席。設置推進委員会の椿一孝会長が「平成18年7月の大雨の際、避難勧告の連絡に時間がかかった経験から、無線放送の導入を決めた。住民の安心・安全・ふれあいネットワークづくりに役立てたい」とあいさつしました。



▲あいさつする椿会長



▲各集会所に設置された送信機

大自然に触れ音楽や味覚を満喫

帝釈峡ウォーキング&まほろばコンサート

REPORT ⑧

すがすがしい夏の帝釈峡で7月19日、帝釈峡ウォーキングとまほろばコンサートが開催され、市内外から約200人が参加しました。

参加者は、中四国地方の縄文式土器編年の基準となっている「寄倉岩陰遺跡」や帝釈の鍾乳洞を代表する「白雲洞」などを巡り、時折小雨の降る中、思い思いにウォーキングを楽しみました。折り返し地点では、間近に見る雄橋の迫力に感動しながら、せせらぎの音にほっと一息ついていました。

午後から帝釈小学校体育館で行われたコンサートでは、広島市を中心に活躍中のTHE LOFUTY'S(ザ・ロフティーズ)と梶山シュウさんが歌声を披露。参加者は自然にリズムを取ったり、ステージ前で一緒に踊ったり、「元気をいっぱいもらったね」と喜んでいました。



▲寄倉岩陰遺跡を楽しむ参加者

地域の方々による新鮮野菜や特産品販売のテント村、当日限定のレストランも開かれ、夏の味覚も満喫していました。

REPORT ⑨

仏像や七福神など繊細な作品多数
地元作家が木造彫刻展

「趣味の木造彫刻展 啄木鳥の会」が7月8日～12日、口和ヒューマンライツで開催され、仏像や七福神などの作品約30点が展示されました。

この彫刻展を開いたのは「啄木鳥の会」で、地元作家の原良三さんと石田武寛さんの2人が出品。「趣味として彫り続けていた作品を多くの皆さんに見てほしい」と初めて披露しました。作品は地域住民から譲り受けた木材の切れ端などで作られており、来場者は「繊細な仕上げが素晴らしい。趣味の域を越えている」と見られていました。

原さんは「木を見つめていると大黒様や観音様などのアイデアが浮かんでくる。これからも楽しんで作品づくりに励みたい」と話していました。



勇壮な木造彫刻に見とれる来場者 ▶

さとやま庄原夏まつり

ヒバゴン郷どえりゃあ祭

西城地域の夏の風物詩。どえりゃあ囃子パレードや花火大会をはじめ、子ども大抽選会、西城川太鼓の演奏など、楽しい催しがいっぱいです。

とき 8月13日(木)

ところ 西城市街地

茶のみんさい通り夢公園(メイン会場)

- 15時～ 子ども大抽選会
- 18時40分～ どえりゃあ囃子パレードスタート
- 20時～ 打上花火
- 21時10分～ エンディング
神楽・餅まき

問い合わせ

ヒバゴン郷どえりゃあ祭実行委員会

☎0824-82-2904

庄原よいとこ祭 [8/21~23]

庄原の夏を締めくくる一大イベント。今年も、パレードや花火大会などのメインイベントをはじめ、各種イベントが盛りだくさん。

主な内容

8月21日(金)13時～

吹奏音楽会、歌祭り…庄原市民会館

8月22日(土)12時～

紙相撲大会など各イベント…庄原小学校グラウンド
パレード…市街地

よいとこGIGS…楽笑座

8月23日(日)9時～

芸能祭・お茶席・華展(文化協会)…庄原市民会館
大花火大会…上野池

問い合わせ 庄原よいとこ祭実行委員会

☎0824-72-7380 FAX.0824-72-7381

※日時・場所・内容についてはあくまでも予定です。変更などがある場合はご了承ください。

庄原夏まつり花火大会

3000発の花火が、庄原の夜空を華やかに彩ります。

とき 8月23日(日)19時30分～

※雨天の場合は24日(月)に順延

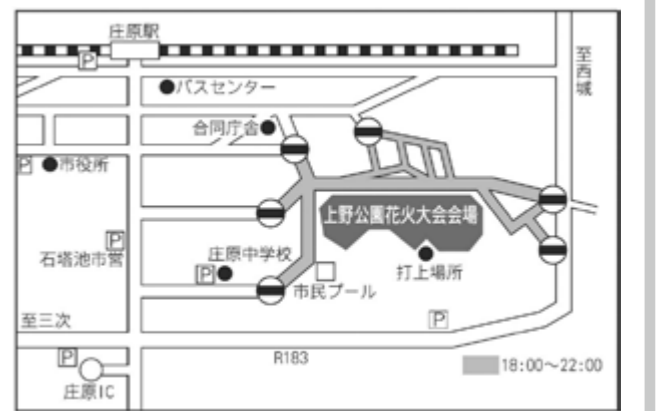
ところ 上野公園

駐車場 庄原中臨時駐車場、市役所広場駐車場、石塔市営駐車場、庄原駅横市営駐車場、ザ・ビッグ庄原店駐車場、上野総合公園駐車場(駐車可能時間:18時～22時30分)

交通規制 18時～22時(地図を参照してください)

- その他
- 当日は、庄原市水泳プールは17時に閉場します。
 - 上野公園内の駐車場は利用できません。
 - 身障者は上野公園駐車場をご利用いただけます。許可証を発行しますので事前に事務局へご連絡ください。
 - 交通規制時間以外の歩道への場所取りは歩行者の迷惑になるため、ブルーシートなどは撤去します。

問い合わせ 庄原観光協会 ☎0824-73-0602



生活相談

身体障害者補装具判定会

〔聴覚〕 8月20日(木)

受付13時～14時

ところ 広島県北部保健所

※1週間前までに社会福祉課障害者福祉係へ予約を。

☎0824-73-1210

人権相談(特設)

各地域で人権擁護委員が相談に応じます。

●庄原地域

とき 8月25日(火)

9月8日(火)

13時30分～16時30分

ところ 庄原市ふれあいセンター

●東城地域

とき 9月3日(木)

13時30分～16時30分

ところ 西城公民館

●西城地域

とき 9月10日(木)

13時30分～16時30分

ところ 西城公民館

●高野地域

とき 8月19日(水)

13時～16時

ところ 高野支所

●比和地域

とき 8月20日(木)

13時30分～16時30分

ところ 比和文化会館

●総領地域

とき 9月10日(木)

9時～11時

ところ 総領健康福祉センター

問い合わせ

三次人権擁護委員協議会

☎0824-62-2572

定期巡回児童相談

北部子ども家庭センターが子育てに関する相談に応じます。

●庄原地域

とき

8月27日(木)・9月17日(木)

10時～15時

ところ

庄原市ふれあいセンター

※1週間前までに女性児童課子育て支援係へ予約を。

☎0824-73-0051

障害者相談員定期相談会

〔庄原地域〕

身体 9月14日(月)

知的 9月8日(火)

13時30分～16時30分

13時30分～16時30分

ところ 庄原市ふれあいセンター

〔東城地域〕

身体・知的 9月18日(金)

10時～12時

ところ

庄原市役所東城支所

※事前予約もできます。

問い合わせ

社会福祉課障害者福祉係

☎0824-73-1210

健康相談

広島県北部保健所(三次市十日市東)で実施する健康相談です。事前に電話でご予約ください。秘密は厳守します。

●心の健康相談

ストレス、うつ病などの心の健康に不安のある方やその家族からの相談に応じます。

とき 8月18日(火)

13時～14時30分

●Eイズ検査相談

検査は無料・匿名で受けられます。結果はその日にお知らせできます。相談は随時受け付けています。

とき 9月9日(水)

13時～15時

申し込み・問い合わせ

広島県北部保健所保健課

☎0824-63-5181

無料登記相談所

司法書士などによる「無料登記相談所」を、毎月第2木曜日に開設します。

登記申請手続きなど、登記に関することなら、何でもお気軽にご相談ください。

とき 9月10日(木)

10時～12時 13時～15時

ところ 庄原市ふれあいセンター

問い合わせ

広島法務局民事行政調査官室

☎082-2228-5690

催し

読み聞かせ研修交流会

本の読み聞かせを広めることで、子どもたちの心の安らぎや豊かな感性を磨くことができます。

市内で活動する本の読み聞かせグループや興味がある方々の研修と交流を行うことで、情報交換と読み聞かせの技術向上を目指します。

本の読み聞かせに興味のある方や活動をされている方の参加をお待ちしています。

とき 9月9日(水)

10時～14時30分

ところ 口和文化ホール ヒューマンライツ

県障害者ふれあいランド(総合福祉展)

障害のある人びとの社会参加を促進し、障害のある人びとに対する理解を深めるため、広島県障害者ふれあいランドが開催されます。

内容

障害のある人びとが製作した手工芸品や、文化・芸術作品の展示・即売、歌などのステージ発表、福祉施策の紹介など。

とき 8月29日(土)・30日(日)

ところ 福山ロッツ

(福山市西町一丁目1-1)

問い合わせ

広島県障害者支援課

☎082-513-3162

(ダイヤルイン)

参加費 1000円(昼食付)

内容

講演「読むよろこび」戸井妙子さん(庄原市総合サービ

ス(株)取締役)、読み書かせグ

ループの発表(山の子会・お

はなしのいずみ・おはなし

ファンファン)、被爆体験記

朗読会(口和本の会) など

申込締切 9月1日(火)

申し込み・問い合わせ

口和公民館

☎0824-87-2213

人・地域づくりフォーラム

～人材を育て、地域に貢献しましょう～
私たちの故郷は、私たちの手で創りませんか。
とき 8月30日(日) 14時～

みよしまちづくりセンター
「希望に満ちた未来社会にむけて」
講師 広島大学学長 医学博士 浅原利正さん

「庄原格致高校写真部作品展」を開催します。写真甲子園で入賞を果たした生徒たちの作品です。里山の四季の移ろいや暮らしの一コマを確かな審美眼でとらえた写真52点を展示しています。
期間 8月30日(日)まで 9時～17時

時悠館 夏休み特別展

「庄原格致高校写真部作品展」を開催します。写真甲子園で入賞を果たした生徒たちの作品です。里山の四季の移ろいや暮らしの一コマを確かな審美眼でとらえた写真52点を展示しています。
期間 8月30日(日)まで 9時～17時

切り花交流会

6月に開催した「めぶぎ交流会」の第2弾。ヒゴタイなどの盆花を摘み、三河内八十八箇所めぐりをします。古民家で囲炉裏を囲んだ歓談も予定しています。
とき 8月22日(土) 10時～13時30分

3B体操で健康づくり

3B体操は、「健康で安らかな心、健康で美しく、健康で美しく老いる」をスローガンとする健康体操で、ポール・ベル・ベルトの3つの用具を使い、心と体を動かします。無理せず自分に合った運動ができるのも特徴で、赤ちゃんから高齢者まで3世代で楽しめます。

●楽らく3B健康づくり
寝たきりにならないため、楽しく体力づくりを始めま

一般(高校生以上)400円
団体(20人以上)320円
※中学生以下無料

県美術展巡回展(庄原会場)
入賞作品と市内応募者の入選作品を展示
とき 9月2日(水)～9月6日(日) 10時～18時

募集

人権作品募集
生命の尊さや生きることのすばらしさ、平和の大切さを表現した作品を募集します。
学校・グループ・職場単位で応募することもできます。多くの皆様のご応募をお待ちしています。
募集部門
○作文・詩の部
○標語の部
○絵画・詩画・ポスター・写真・オブジェなどの部

市美展作品募集

日本画・洋画・書・彫塑・工芸・写真それぞれの部門で、市民の皆さんの作品を募集します。
◎作品の搬入
とき 10月9日(金)～10日(土) 受付時間 10時～18時
ところ 田園文化センター
※応募要項および申込書は田園文化センターのほか、各自治振興センター・各公民館・各支所教育室にあります。
問い合わせ 田園文化センター
☎0824-172-1159

応募方法
・作品は未発表のものに限り、一人1点とします。
・作品には、名前(児童、学生は学校名・学年)と住所をご記入のうえ、作品への思い入れなどを添えてください。(又モ程度で結構です。)

募集期間
8月10日(月)～9月25日(金)
応募要領
作品の裏面に住所・氏名・年齢(児童、学生は学校名・学年)・電話番号を記入して応募してください。

募集締切
9月30日(水)必着
作品の郵送先・問い合わせ
〒727-8501
庄原市中本町二丁目10番1号
教育委員会生涯学習課
☎0824-173-1188

庄原・絵手紙大賞作品募集
募集作品
未発表の自作絵手紙
(ハガキ大)1人2点まで
画題 自由
対象
庄原市内在住(または勤務)の小学生以上の方

その他

平成21年度は固定資産評価替の年
固定資産の土地と家屋については、基準年度(3年ごと)に評価替えを行っており、平成21年度は評価替えの年です。
納税者には、5月中旬に納税通知書と課税明細書を送付していますので、評価額または課税標準額などの確認をしてみてください。
ご不明な点は、税務課資産税係または各支所市民生活室市民生活係にお問い合わせください。

ドラングリ収集のお願い
庄原商工会議所は、地域資源を活かした地域と産業の活性化を図る取り組みの一環として「どんぐりコロコロ豚プロジェクト21」事業を行っています。
放牧肥育で餌にドラングリを混ぜて育て、地域ブランドとなる「どんぐりコロコロ豚」を作り出そうというものです。

募集期間
8月10日(月)～9月25日(金)
応募要領
作品の裏面に住所・氏名・年齢(児童、学生は学校名・学年)・電話番号を記入して応募してください。

表彰
優秀作品は一般・子ども別に大賞・優秀賞・奨励賞などを贈ります。
その他
入賞作品、応募作品は10月8日～11日に市民ギャラリー・アート多愛夢で展示します。入賞作品の著作権は主催者に帰属し、作品は返却しません。

応募先・問い合わせ
〒727-8501
庄原市西本町二丁目17番15号
庄原市民会館内
庄原市文化協会
☎0824-172-1545
〒727-8501
庄原市中本町二丁目10番1号
庄原市商工観光課商工観光係
☎0824-173-1179

県民の森イベント
県民の森ホテルに宿泊して、比婆山を中心に近郊の山々を訪ねる「中国山地の自然

探訪のご案内です。今回は、比婆山と道後山の観察です。秋の草花ウォッチングに出かけてみましょう。詳しい内容は、申込者に別途ご案内します。
とき 9月11日(金)・12日(土)
参加費
1泊3食
1人 1万5000円
日帰り
1人 2000円
定員 25人
申し込み・問い合わせ
ひろしま県民の森公園センター
☎0824-184-2011

クロカンパーク自然観察会
道後山高原クロカンパーク内に自生する中国山地特有の山野草などの植物を、現地ガイドの分かりやすい解説で紹介いたします。秋の花たちが咲き始めます。
とき 9月6日(日) 10時～
ところ
道後山高原クロカンパーク
参加費 大人 5000円
高校生以下 2500円
問い合わせ
(入園料含む)
道後山高原クロカンパーク
☎0824-184-2727

本年度は、市の補助金を受けて生産者の拡大と肉質の安定を図り、試験販売(市販化)を行っていきます。安定した生産体制を確立するためには、まとまった量のドラングリが必要となります。ドラングリ集めに協力いただける方(団体・個人)を探しています。
1キ当り1000円で購入し、12月末まで受け付けます。
持ち込み先 庄原商工会議所(月～金 9時～17時)
注意
◎泥は多少付いていても問題ありませんが、石は取り除いてください。
◎雨水が付いたものは腐る原因になりますので避けてください。露などで濡れたものはネットの袋に入れてご持参ください。
◎昨年落ちたものは混ぜないようお願いいたします。(古いものは白くなっているのですぐ分かります)
問い合わせ
庄原商工会議所
☎0824-172-1212

金・プラチナ買取専門ショップ
金・プラチナ お売り下さい
メガネの御用命は「敬ちゃん時計店」及び「メガネハウス タケダ」をご利用下さい。
12種類のレンズが選べるセット
《メガネ出来上り価格》
¥19,000
①スタンダードレンズ ⑦くもりにくいレンズ
②非球面レンズ ⑧遠近両用レンズ(初めの方へ)
③薄型非球面レンズ ⑨遠近両用レンズ(薄型でスッキリ)
④超薄型レンズ ⑩遠近両用レンズ(ドライプに)
⑤ガラスレンズ ⑪中近両用レンズ(デスクワークに最適)
⑥調光ガラスレンズ ⑫近々両用レンズ(手元がワイドに)
●その他、各種価格のメガネも出来ます。
(株)敬ちゃん時計店
TEL: (0824) 72-0377
メガネハウス タケダ
TEL: (0824) 75-0037
宝石・バッグ・舶来ウォッチ
TEL: (0824) 65-0522

特別弔慰金のご案内

公務扶助料、遺族年金等を受けていた方(戦没者等の妻や父母等)が、平成17年4月1日から平成21年3月31日まで亡くなるなどにより、平成21年4月1日現在、これらの年金の受給者がいない場合、国として弔慰の意を表すために、特別弔慰金が支給されます。(※祭料・墓守料ではありません)
対象者
 戦没者等の死亡当時のご遺族で、次の順番による先順位の方お一人。
 1 平成21年4月1日までに弔慰金の受給権を取得した方
 2 戦没者等の子
 3 戦没者等の
 ①父母 ②孫 ③祖父母
 ④兄弟姉妹
 (戦没者等と生計関係を有していた方のうち、平成21年4月1日において氏が変わっていない方または、遺族以外の方と養子縁組をしていない方に限ります)
 4 3以外の
 ①父母 ②孫 ③祖父母
 ④兄弟姉妹
 5 1から4以外の三親等内の親族

夏まつり開催中!
 Summer Festival 2009
 8月31日(月)まで

備北丘陵公園
 だより



備北公園管理センター
 ☎0824-72-7000 (http://www.bihoku-park.go.jp/)

楽しい夏休み!

夏ならではのイベントの魅力をご紹介します!
 庄原の自然と味わいを、帰省されたご家族と一緒に、お楽しみください。

夏の生き物を紹介!

「夏の自然観察会」
 「ひばの里」に生息する昆虫、生き物たちをガイドが楽しくご案内します。

(戦没者の死亡時まで引き続き1年以上の生計関係を有していた方に限り)ます)
支給内容
 額面24万円、
 6年償還の記名国債
請求期限
 平成24年4月2日
請求に必要なもの
 ①印鑑
 ②戸籍等の書類(請求順位によって異なります)
問い合わせ・請求窓口
 社会福祉課障害者福祉係
 ☎0824-73-1210
 各支所保健福祉室・市民生活室

道路ふれあい月間

「また歩こう そんな気になる 道がいい」
 8月は「道路ふれあい月間」です。
 私たちが日々何気なく使っている道路には、色々な機能があります。自動車や歩行者などが通行するための用途のほか、上下水道管などの公共的な施設の設置、またユニバーシヨンの場や、安らぎの場としても使われています。このように、道路は私たちの生活の基本を支える施設ですが、身近な存在のため、その大切さが見過ごされがちです。誰もが毎日使う道路です。8月10日の「道の日」を機会に、道路の重要性について見直してみませんか。
問い合わせ 建設課管理係
 ☎0824-73-1150
 または各支所環境建設室

訓練生募集

4月入校の訓練生を募集します。

訓練科目および定員

訓練期間	科名	定員
2年	自動車整備科	20人
1年	溶接加工科	20人
	建築インテリア科	20人
6か月	OAビジネス科	20人

第1期選考受付期間
 9月15日(火)~10月30日(金)
選考 11月16日(月)
問い合わせ
 県立三次高等技術専門学校
 ☎0824-62-3439

あっぱれ庄原

全国レベルの大会出場者、全国・県レベルの大会、市が共催する各種大会などの上位入賞者を掲載します。(敬称略)

世界大会

ユニバーシアード大会
 (7月1日~12日・セルビア共和国)

その他

●競泳 200メートル平泳ぎ
 ◎優勝(金メダル)
 金藤 理絵(東海大学3年)

その他

エソールひろしま
 川柳コンテスト

●「TEAM」男女共同参画
 ◎高校生・一般の部入賞
 荒木美智子(庄原市)

●「TEAM」挑戦・チャレンジ
 ◎小・中学生の部入賞
 中村 朱伽(口北小6年)
 藤田 碧(口北小6年)

●該当する方の情報は
 企画課広報統計係
 ☎0824-73-1159
 までお寄せください。

好評! 手作りの食体験

「夏のお菓作りシリーズ」
 自然な甘さが好評の「夏のお菓子作り」。地元産の食材を使った素朴なおいしさを味わってみてはいかがでしょう。手作りの楽しさとおいしさ、両方を体感できますよ!
開催日
 ◎わらび餅
 8月8日(土)、9日(日)
 ◎柏餅
 8月13日(木)、14日(金)
 ◎梅寒天
 8月22日(土)、23日(日)
 ◎水ようかん
 8月29日(土)、30日(日)
会場
 ひばの里「上の農家」
参加費 500円
 ※人気の「大流しうどん」は8月13日(木)、14日(金)に開催します。

「夏の生き物展」

公園や公園周辺で見かける昆虫や魚たちを飼育展示と標本で紹介。間近でじっくり観察してみませんか?
開催日
 8月31日(月)まで毎日
会場
 北入口エントランスセンター国兼

おすすめ!

夏の手作りクラフト体験
 「夏の染め物体験」
 「インディゴワークス」
 さわやかなブルーが美しいインディゴ(藍)染め体験。



花の広場にひょうたんトンネル登場

広告 住まいの相談所 建築工事業 許可(般-18)第1845号 公共下水道登録番号128号

有限会社 藤本工務店
 FUJIMOTO
 ☎(0824)72-3146
 下水道及び浄化槽設置承ります
 http://www1.ocn.ne.jp/~fujimo-k/index.html

新・増改築

家のよろずや万屋

広告 庄原市で

つながること、
 こだわるドコモ。

あしたにつながる 検索 docomo

2009年8月のエリア拡大・品質向上予定地区
 西城町熊野、東城町川東、
 東城町福代、東城工業団地

※エリア拡大・品質向上予定は変更となる場合があります。
 ※FOMAは無線を使用しているため、サービスエリア内でも一部電波の届かないところでは、ご利用になれない場合があります。

人の動き
平成21年6月末日現在

●住民基本台帳登録人口
人口 41,356人(前年比-624人)
男 19,632人(前年比-264人)
女 21,724人(前年比-360人)
世帯数 16,077世帯(前年比-34世帯)

●外国人登録人口
人口 328人(前年比-3人)

市税・水道料金・下水道使用料納付は口座振替が便利です

手続きは各金融機関の窓口でお願いします。
※残高確認も忘れないでください。

●税務課収納係 ☎0824-73-1145
●下水道課管理係 ☎0824-73-1175
●水道課業務係 ☎0824-73-1197

献血のご案内
☎保健医療課 ☎0824-73-1155

献血をつぎのとおり実施します。
皆さんのご協力をお願いします。

実施日	会場	受付時間
8月21日(金)	庄原市役所	10時~11時30分 12時30分~15時
8月26日(水)	高野支所	11時30分~15時

【お詫びと訂正】

広報しょうばら7月号の21ページ、「上野総合公園アスリート教室」の記事の中で、田中茂樹さんを田中繁喜さんと誤って記述しました。訂正し、お詫びいたします。

広報日記

産科医がいない、小児科医がいない…。これでは子育て世代も、不安が増すばかりです。少子化ニッポン、果たしてこのさき大丈夫だろうか？ 今回の特集「守りたい！地域医療」を編集しながら、そんな思いにさせられました。しかし、地域医療の崩壊を嘆いてばかりいただけません。多くの人に小児医療をはじめ地域医療の現状を知っていただき、行政・医療関係者・住民の総力戦で「地域医療の再生」が実現できればと思います。もうすぐ衆議院議員選挙が行われます。今回は政権選択選挙とも言われています。地域医療の確保にどう取り組むのか、各党のマニフェストをじっくり読んでみたいと思いました。☎

犬・猫の引き取り
☎環境衛生課 ☎0824-72-1398

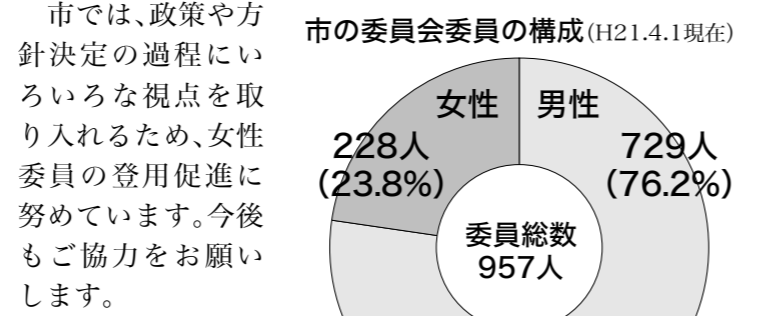
8月・9月の犬・猫の引き取りは、次の日程で実施します。
なお、手続きには認印が必要です。持参してください。

庄原地域	毎月第1~第4火曜日 8月/11・18・25 9月/1・8・15	11:00~11:10 東自治振興センター 11:25~11:35 市役所車庫 11:50~12:00 敷信自治振興センター
西城地域	毎月第1・第3木曜日 8月/6・20,9月/3・17	9:00~ 9:10 西城支所前
東城地域	毎月第1・第3木曜日 8月/6・20,9月/3・17	9:40~ 9:50 小奴可研修センター 10:20~10:30 東城文化会館
口和地域	毎月第4木曜日 8月/27,9月/24	11:40~11:50 口和支所前駐車場
高野地域	毎月第4木曜日 8月/27,9月/24	13:20~13:30 高野支所横
比和地域	毎月第4木曜日 8月/27,9月/24	13:50~14:00 比和支所
総領地域	毎月第2水曜日 8月/12,9月/9	9:40~ 9:50 総領支所 (スクールバス駐車場)

※庄原地域の9月22日は、祝日のため定期収集がありません。

男女共同参画コーナー 女性児童課 ☎0824-73-1243
庄原市の女性委員の比率は23.8%

庄原市の平成21年4月現在の審議会などの女性委員の比率は**23.8%**です。(平成20年度:22.1%)



※庄原市男女共同参画プランに掲げる目標
(平成23年度:30%、平成28年度:50%)

配偶者・パートナーからの
暴力(DV)で悩んでいませんか
~あなたは“ひとり”じゃない~

広島県西部子ども家庭センター 女性相談課
(配偶者暴力相談支援センター・婦人相談所) ☎082-254-0391

広島県北部子ども家庭センター 相談援助課
(配偶者暴力相談支援センター) ☎0824-63-5181 (内線2313)

庄原市役所 女性児童課 ☎0824-73-1243

口和郷土資料館 ☎0824-87-2230
開館日 月・木・土 9時~17時

「みんなで体験 in ふれあいの丘くちわ」

口和郷土資料館は、お子さまを中心に体験イベントを開催します。多数お誘いあわせのうえ、ご参加ください。

①**科学の不思議を体験!**
「あつと驚く」自然の力による、音や電気の「ワンダーランド」を体験します。クラスターのまち実現プロジェクト口和地域ワークショップの事業です。
とき 8月17日(月) 10時~15時
ところ 口和郷土資料館
対象 小学3年生以上20組(申込順)
講師 政宗 茂さん(日本ソーラーエネルギー教育協会)
その他 昼食用のお弁当を準備してください。
申し込み・問い合わせ 口和支所地域振興室
☎0824-87-2111

②**昔あそびを体験!**
めんこや竹とんぼ、おはじきや水鉄砲など、昔のあそびを体験します。
とき 8月20日(木) 9時~12時
ところ 口和郷土資料館・ふれあいの丘くちわ
対象 小学生以上(保護者をはじめ大人も大歓迎)
その他 申し込みは不要です。当日直接お越しください。また、運動のできる服装・帽子とタオルの準備をお願いします。
問い合わせ 口和郷土資料館
☎0824-87-2230(月・木・土のみ)

休日診療のご案内

8月・9月の休日診療については、次のとおりです。

●庄原地域

8月15日(土)	河本医院	☎0824-75-0311
16日(日)	毛利医院	☎0824-72-2863
23日(日)	戸谷医院	☎0824-72-3131
30日(日)	児玉医院(川北町)	☎0824-72-0147
9月 6日(日)	庄原赤十字病院	☎0824-72-3111

●東城地域

8月13日(木)	こぶしの里病院	☎08477-2-5255
14日(金)	瀬尾医院	☎08477-2-0023
15日(土)	細川医院	☎08477-2-0054
16日(日)	東城病院	☎08477-2-2150
23日(日)	こぶしの里病院	☎08477-2-5255
30日(日)	日伝病院	☎08477-2-2180
9月 6日(日)	東城病院	☎08477-2-2150

市民ギャラリー「アート多愛夢」情報BOX

市街地の空き店舗を活用した、各種展示ができる市民ギャラリーです。

「世界児童画展」
とき 9月9日(水)~12日(土)
10時~17時
☎庄原市文化協会事務局 ☎0824-72-5453
商工観光課商工観光係 ☎0824-73-1179
※展示を希望される団体(または個人)はお申し込みください。使用料はおりません。

ゆめさくら ☎0824-75-4411

【8~9月のイベント情報】

▶**ゆめさくら講座**
◎親子で貯金箱づくり教室
とき 8月21日(金) 9時~12時
参加費 1,500円 定員 12組
◎癒しの空間づくりkouza ~苔玉教室~
とき 9月16日(水)
朝の部 10時30分~12時30分
昼の部 13時30分~15時
参加費 500円 定員 各20人
※作品は苔玉作品展に展示します。

▶**展示 ほか**
◎中国山地豊かな自然写真展
とき 8月31日(月)まで
◎庄原茶道連盟【お茶会】
とき 8月30日(日)9時~15時
◎苔玉作品展~苔玉の世界へようこそ~
(主催:エトピリカ)
とき 9月19日(土)~28日(月)

ふれあい市長室の日程
☎企画課広報統計係 ☎0824-73-1159

◎とき 9月12日(土) 9時~12時
◎ところ 東城支所
※公務により実施できない場合もあります。
※道路の改良・維持・修繕などの要望、陳情は、事業担当課へお願いします。

しょうばら九日市

毎月9日は、しょうばら九日市
★出展者募集中! あなたのお店を開こう。
★毎月20日が出店申込締切です。
★申し込みは
交流サロンラッキー ☎0824-72-0075まで

9月
《とき》 9月9日(水) 10時~14時
《ところ》 中本町商店街周辺
(のぼりが目印)
詳しくはHPで <http://kunchi-ichi.main.jp>